

大項	中項	小項	
1_基本仕様	1-1_共通管理	1-1-1_基本項目	
		1-1-2_データ管理	
		1-1-3_操作性	
		1-1-4_保守性	
		1-1-5_セキュリティ	
		1-1-6_その他	
1-2_帳票・統計	1-2-1_帳票・統計		
	1-2-2_帳票出力		
2_資料管理業務	2-1_資料管理業務	2-1-1_選書登録	
		2-1-2_発注処理	
		2-1-3_受入処理	
		2-1-4_AV管理	
		2-1-5_逐次刊行物管理	
		2-1-6_予算管理	
		2-1-7_資料検索	
	2-2_目録管理業務	2-2-1_書誌管理	
		2-2-2_典拠管理	
		2-2-3_目録リスト	
	2-3_所蔵管理	2-3-1_所在管理	
		2-3-2_蔵書点検	
		2-3-3_背ラベル・排架	
	3_窓口業務	3-1_窓口全般業務	3-1-1_画面表示／構成
			3-2_利用者管理
3-2_利用者管理		3-2-1_利用者データ管理	
		3-2-2_利用者検索	
		3-2-3_運用支援機能	
3-3_貸出・返却		3-3-1_貸出条件設定	
		3-3-2_共通	
		3-3-3_貸出	
		3-3-4_返却	
3-4_予約リクエスト業務		3-4-1_所蔵あり書誌（予約）	
		3-4-2_所蔵なし書誌（リクエスト）	
		3-4-3_予約情報取り扱い	
		3-4-4_リクエスト情報取り扱い	
3-5_相互貸借業務		3-5-1_相互貸借管理	
		3-5-2_相互貸借／貸出	
		3-5-3_相互貸借／借受	
3-6_問い合わせ		3-6-1_資料情報	
3-7_督促		3-7-1_延滞資料の検索	
		3-7-2_督促の実施	
3-8_移動（巡回）図書館業務	3-8-1_移動（巡回）図書館		
4_利用者サービス機能	4-1_館内OPAC業務	4-1-1_共通	
		4-1-2_蔵書検索	
		4-1-3_予約申込	
		4-1-4_貸出・予約情報照会	
		4-1-5_パスワード	
		4-1-6_情報提供	
	4-2_利用者向けWebサービス機能	4-2-1_共通	
		4-2-2_蔵書検索	
		4-2-3_予約申込	
		4-2-4_貸出・予約情報照会	
		4-2-5_パスワード	
		4-2-6_情報提供	
	4-3_携帯電話向けサービス	4-3-1_携帯電話向けサービス	
	4-4_レファレンス	4-4-1_レファレンス	
	5_Web図書館連携	5-1_Web図書館連携	5-1-1_Web図書館連携
	6_デジタルサイネージ	6-1_デジタルサイネージ	6-1-1_サイネージ
			6-1-2_コンテンツ
	7_その他連携	7-1_光丘文庫	7-1-1_画像資料
7-1-2_デジタルアーカイブ			
7-2_国立国会図書館	7-2-1_国立国会図書館		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
1_基本仕様						
1-1_共通管理	1-1-1_基本項目	1	利用者公開システムはWindows及びiOS/Androidにも対応したシステムであること。	○		
		2	図書システムの各業務は、インターネットエクスプローラ（IE11以降最新バージョン）上で動作可能であること。	○		
		3	図書システム並びに付随する業務システムは、リース契約期間に生じる当該システムのメジャーバージョンアップにも対応可能であること。	●		
		4	図書館システムはICタグシステムと連携すること。	○		
		5	ICタグの読み取り、書き込みの電波の強弱やチャンネルについて、ICリーダライタ本体、もしくは図書館システムで、電波法に抵触しない範囲で、職員が調節可能であること。	●		
		6	ICタグ用ハンディターミナルで読み込んだデータファイルを取り込めること。	○		
		7	中央館は自動貸出機による貸し出しが可能であり、貸出情報を図書館システムと連携できること。	○		
		8	中央館は自動返却機による返却が可能であり、返却口から投入された返却資料がICタグの高速リーダライタを通過することにより、一次処理として仮返却処理を行うこと。	●		
		9	利用者のプライバシー保護に十分な配慮がなされていること。	○		
		10	図書システムの利用者画面では、高齢者・障がい者へ配慮したWebアクセシビリティに配慮した画面デザインであり、JIS X8341-3:2016（『高齢者・障害者等配慮設計指針－情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス－第3部：ウェブコンテンツ』）のAA等級以上に適合していることが望ましい。	●		
		11	データ入力を行う画面において、必須入力となる項目に任意の背景色、文字色を設定できること。表示文字についても、フォント書体・サイズの変更が可能であること。	○		
		12	所管する中央館・分館間の資料移送を確実にするため、①所蔵館（本籍館）②所在館（現在資料が処理された館）③行先館（回送などにより、資料の移動予定先の館）の管理を実現されること。	○		
		13	全画面にログインIDと処理端末IDが表示できること。	○		
		14	多言語（UTF-8）を扱えるシステムであること。	○		
		15	休館日については、館毎にカレンダー管理することができること。	○		
		16	利用者番号を読み込んだ時点で、利用者区分、資料種別毎の返却期限および既貸出資料数、延滞資料数、他者予約付き延滞資料数、督促資料数、予約数、確保済み予約数を表示すること。	○		
		17	入力項目で複数エラーが発生した場合は、どの入力項目がエラーなのか一目で分かるように赤色等による強調表示ができること。	△		
	1-1-2_データ管理	18	各種業務において関連するコードを含めて必要なコードが画面上で参照できること。また、各コードの管理については、名称からも参照ができること。	△		
		19	原則として、現図書館システムのコードの桁数及び内容を継承できること。また、ISBN改変に伴う桁数の変更にも対応すること。	○		
		20	メールの送信履歴（送信日時・宛先・送信元・件名・本文）を一覧で確認でき、CSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。また、メールの送信履歴より、送信先の利用者情報を確認できること。	○		
		21	予約案内や督促通知等、システムから自動で送信されるメールの文面を職員が編集可能であること。	○		
		22	各種業務における分類番号の利用を容易にするため、複数の分類テーブルを管理し、図書管理業務、雑誌管理業務及び業務用蔵書検索機能で相関索引として利用できること。	△		
		23	頻繁に使用するコードテーブルにおいて、容易に登録および変更が可能なこと。また、コードテーブルの変更が自動的に全てのシステム内で反映されること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		24	異体字・旧字・欧文特殊文字などについて、変換テーブルを利用できること。	○		
		25	導入時には、少なくとも、日本図書館協会発行の日本十進分類表（NDC）の機械可読データファイル（MRDF）及び本図書館作成の機械可読データファイル（郷土分類表、児童図書室分類表）をシステム上で利用できるようにすること。なお、これらのデータファイルは本図書館が提供するものとする。	○		
	1-1-3_操作性	26	システムの業務メニュー、処理選択等は、キーボードやマウス、またはファンクションキーの操作により安易にメニューの切り替えができること。また、目的毎に業務画面が色分けされるなど、識別しやすい工夫がなされていること。	○		
		27	システム管理等を除く通常の業務においては、コードを意識することなく操作ができること。	○		
		28	各項目は、使用法の説明をPDFまたはオンラインヘルプ等で参照できること。	●		
		29	自動貸出機、館内OPACの操作は、全てタッチパネルでの操作が可能なこと。	○		
		30	検索キーの入力については、ひらがな・カタカナ、大文字・小文字、全角・半角、促音、拗音が区別されることなく、正規化して利用できること。（同音異語でも検索でき、清音規則は任意に設定できること）	○		
		31	検索結果の抽出表示に時間を要する場合、検索中断キーを設けるなどし、中断処理が可能なこと。	○		
		32	職員が操作する画面の検索キーについては、前方一致、後方一致、完全一致、部分一致等の検索方式が選択できること。	○		
		33	表示項目の表示幅を設定でき、必要に応じて表示幅を広げて表示させることができること。	○		
		34	1 台の端末で複数のウィンドウ画面を立ち上げ、表示を切り替えて別業務を行える、マルチウィンド対応となっていること。【例】複数の業務画面を立ち上げ、資料登録途中に入力を中断し、貸出処理を行い、その後中断していた資料登録を再開することが可能。	○		
		35	全ての画面において画面印刷が可能なこと。	○		
		36	全ての検索で一覧表示されたものは一覧印刷が可能なこと。また、CSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	○		
		37	データの修正・削除については、その内容に応じて処理可能な操作担当者の権限を限定し、誤操作によるデータの削除等が発生しないようにできること。	○		
		38	TABキー、Enterキー、上下キーにより各入力項目間のカーソルを移動できること。	△		
		39	ディスプレイがタッチパネル式の場合、画面上のボタンが大きく設定されており、指によるタッチであっても無理なく操作できること。	○		
		40	バーコードリーダーによる読み込み時、必ず端末からも確認音が出ること。（端末で読み込めていない際はエラー音を出せること。）	○		
		41	データの登録・修正・削除等の操作画面において、「実行」または「終了」ボタンをクリックしたとき、選択した処理を確定させるかどうか、確認メッセージを表示すること。	○		
		42	日付項目はカレンダーからの入力ができること。	○		
		43	コード項目はプルダウンメニューからの選択が可能なこと。プルダウンメニューに表示される順番は入れ替えができること。	○		
		44	各関連業務内の処理画面（窓口業務内の貸出、返却等）の個々の展開は、システムのホーム画面に戻らなくても可能なこと。	○		
		45	ワンクリックで起動する別画面は、任意に設定できること。	○		
		46	画面で表示する各種一覧は、選択された明細または特定の項目に関し、コピー＆ペーストが可能なこと。	○		
		47	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンクリックで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力が可能であること。	○		
		48	画面の移動状況を表示し、その移動過程にある画面には、ワンクリックで戻ることができること。 【例】①貸出処理→②利用者検索画面→③利用者登録画面→④利用者貸出一覧画面の順で移動したとき、①②③どの画面にも戻ることができること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		49	職員IDを設定することにより、職員ID毎に業務メニューを設定できること。	○		
		50	通知はアラーム音・音声でも行え、機能毎に設定できること。	○		
		51	コメント付き資料・除籍資料・不明資料・借受資料・予約資料・未貸出資料等を自動的にチェックし、音やメッセージで職員に通知できること。	○		
	1-1-4_保守性	52	図書システムの障害時、機能追加時におけるプログラムの入れ替えはサーバのみで対応可能であり、クライアント毎の入れ替えは不要であること。	○		
	1-1-5_セキュリティ	53	個人情報やパスワードは暗号化を行うこと。個人情報、パスワードなどの通信時にも暗号化通信とすること。	○		
		54	図書館システムの利用者番号（ID）のパスワードは管理者及び、個人でパスワード変更が可能なこと。	○		
		55	各業務画面から、オペレータの切り替えが可能なこと。	○		
		56	セキュリティの観点より、職員の操作履歴を取得できること。また、職員IDや日時等の条件で検索できること。日付・時刻・行った処理・職員名等の履歴を収集できること。履歴はCSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。履歴を削除できること。	○		
		57	図書システムはBDS等のセキュリティゲート型アンテナ（以下、「BDS」）と連動し、作動に必要な図書館システム側のデータを提供すること。	●		
		58	BDSは透明アクリル樹脂等の材質により圧迫感のない外観であり、赤外線センサーを装備し、ゲートを通過する進行方向判断とそれに伴う来館者・退館者をカウントし、図書システムと連携可能であること。	●		
	1-1-6_その他	59	貸出期限票、予約者連絡票、回送指示票等のレシートを任意の専用プリンタにより出力できること。再出力も可能なこと。	○		
		60	レシートの出力項目等を設定できること。	○		
		61	図書館業務メニューから、他関連Webサイト（県立図書館等）を表示できること。また、Webサイトのリンクは任意に設定できること。	○		
		62	職員向けの「おしらせ・イベント情報」表示ができること。「おしらせ・イベント情報」は任意、かつ、複数の設定・表示が可能であること。	○		
1-2_帳票・統計	1-2-1_帳票・統計	63	各種統計の出力が可能で、統計項目は本図書館の要覧・統計書及び日本図書館協会「公共図書館調査」に必要な調査項目に対応していること。	○		
		64	定型的な統計情報抽出機能のほか、新たな集計項目が発生した場合に対応できるような集計条件等の拡張機能を持つこと。加えてデータベースから任意の条件によって職員が必要とするデータを抽出する機能と、メニューからの選択等の簡単な手続によってCSV形式等の標準的なフォーマットで統計ファイルを出力する機能を有すること。	○		
		65	各種統計データは、複数年度にわたって保存できること。	○		
		66	各種統計データは、日次・月次等のバッチ処理を必要とせず、年月日の範囲指定により随時出力できること。	○		
		67	全ての統計結果および抽出リスト等のデータは、CSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	○		
		68	利用者登録に関する統計（年齢、性別、住所等による区分）が抽出できること。 年齢別、地区・年齢別、利用者区分別、新規登録集計、年報・月報での利用者統計が期間を設定して抽出できること。二重登録、長期未返却、長期未使用、連絡不能者、無効の利用者リストが抽出できること。	○		
		69	資料の貸出に関する統計（資料の分類、時間帯、利用者の年齢、性別、住所、所蔵館等による区分）が抽出できること。 時間帯別、年齢区分別、分類・年齢別、地区・年齢別、利用者区分別、企画展示別、グループ別、貸出利用者数集計、最多利用資料、利用資料、貸出集計、団体貸出集計、予約貸出統計、分類別回転率集計、年報・月報での資料利用統計が期間を設定して抽出できること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		70	図書館の所蔵に関する統計（分類、対象、言語等による区分）が抽出できること。 [蔵書統計] 日付あるいは年度、本籍あるいは所蔵、設定日（登録日もしくは受付日）、期間、資料区分等を指定して蔵書数の統計が抽出できること。 [受入統計] 本籍あるいは所蔵、設定日（登録日もしくは受付日）、期間、資料区分等を指定して排架区分別あるいは受入区分別に受入数の統計が抽出できること。	○		
		71	相互貸借に関する統計（相手館の種類、地区等による区分）が抽出できること。 最多利用資料、貸出・借受資料（媒体別、資料種別、分類別）の統計が抽出できること。	●		
		72	館内OPACおよびWebサービスでの利用状況（アクセス数等）が抽出できること。また、期間、ランキング数を指定して資料名等を抽出できること。	○		
		73	時間帯別、利用者種別でのインターネット閲覧席、AV席、PC利用席、静寂閲覧席の利用統計が抽出できること。	●		
		74	出力した統計表には単位の記載（冊、回、人等）があるか、列見出しの表記で容易に単位を理解できるものであること。	○		
		75	各統計機能について、簡単な説明や注意事項が参照できること。	○		
		76	統計期間をして、有効登録者数を算出できること。 利用者種別（在住、在勤、在学の区内と区外）で集計できること。	○		
		77	予約に関する統計が抽出できること。 [予約集計] 期間、個人、団体、全てを指定して予約数の集計ができること。 [最多予約資料] 図書館名、期間、上位何位を指定して最多予約資料の表示ができること。 [年報、月報] 時間帯、年齢、利用者区分、予約窓口、性別、人数、資料形態、利用者種別毎に予約統計が出力できること。	○		
		78	図書館概要に掲載している統計項目が集出できること。	○		
		79	下記条件にて書誌毎の複本所蔵数をCSV形式等の標準的なフォーマットで抽出できること。 ・図書のみ（除籍資料は除く） ・酒田市立図書館全館での所蔵（分館含む） ・出力項目：書誌コード、タイトル、責任表示、出版者、出版年、複本所蔵数	●		
		80	図書館要覧に記載している統計情報（分類別蔵書冊数（類目別、一般書／児童書別）、利用状況（一般／児童別の登録者数、延べ利用者数、地区別登録者数）、年度の資料貸出点数（一般書／児童書別、月別））を出力できること。	○		
		81	利用（貸出・返却・予約）統計表は、日報（時間帯別）・月報（日別）・年報（月別）に出力できること。	○		
	1-2-2_帳票出力	82	帳票の出力件数や枚数が、予め画面上で確認できること。	○		
		83	データベースから任意の条件によってデータを抽出する機能と、メニューからの選択等の簡単な手続によって、CSV形式等の標準的なフォーマットで出力する機能を有すること。	○		
		84	帳票印刷はプレビュー機能で画面上でレイアウトを確認できるもので、印字途中での中断、取消が選択できること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
2_資料管理業務						
2-1_資料管理業務	2-1-1_選書登録	85	TRC-MARC番号を使って発注データを作成できること。また、新刊全点案内等でバーコードがある場合には、そのバーコードを読み取って選書処理ができること。また、一括連続処理ができること。	○		
		86	ISBNにより選書データを確定できること。なお、桁数の拡張に対応できること。	○		
		87	TOOL連携時には、TOOLを利用したMARC番号入力により選書登録ができること。	△		
		88	資料検索結果から必要な資料を任意に選択し、選書登録することが可能であること。	△		
		89	選書の一括登録時、館毎の注文数を指定して登録できること。	○		
		90	発注前に、登録した選書情報を選書リストとして出力できること。	●		
		91	発注前の選書状態を管理するための「状態区分」の入力項目があること。	○		
		92	選書リストに出力したバーコードを読み込み、資料の選書状態・保留状態・発注状態の変更、及び選書取消ができること。	○		
		93	選書登録時に既所蔵や二重発注のチェックができること。また、そのまま選書を行うか、取り止めるかを選択できること。	○		
		94	選書登録画面から、注文1件毎の注文詳細画面へ展開し、注文事由、注文コメント、TRC顧客コードなどの設定が行なえること。	△		
		95	選書登録画面から、書誌詳細画面に展開できること。	△		
	2-1-2_発注処理	96	発注情報の一括修正・削除が行なえること。取消した発注情報は履歴として残すことができること。	○		
		97	業務画面からインターネットを介してTRCでのオンライン発注処理ができること（見計し発注含む）。	○		
		98	書誌・納入者・選書処理者・選書区分・資料種別・所蔵館・選書日・予算毎に資料発注ができ、その情報が確認できること。	●		
		99	発注データを任意の項目で指定し、発注リスト、発注票、及び発注短冊の印刷出力ができること。	○		
		100	消費税額を自動計算すること。	○		
		101	発注番号を自動付与して、発注データの管理ができること。	○		
		102	発注データに対して利用者の予約情報を登録できること。	△		
		103	発注しようとする資料のMARC情報が存在しない場合、発注画面より書誌登録画面を起動し書誌情報を登録できること。また、登録した書誌情報を流用して発注処理ができること。	△		
		104	選書中・発注済みなどの状態管理ができること。	○		
		105	納入者管理が行えること。また登録した納入者情報の検索が行えること。	△		
		106	発注状況、受入状況が画面で確認できること。自館／他館の表示切替もできること。	○		
		107	新刊MARCやTRCDを利用した発注処理が可能なこと。	○		
		108	発注する資料のMARC番号、ISBN番号を連続して入力することにより、一括発注ができること。	○		
109	MARC番号発注での発注入力時に、TOOLサーバを参照して発注するタイトルの在庫状況を表示できること。	○				
110	中央館と分館間で行われる回送資料の管理ができ、回送中・回送日等の状況をリアルタイムに確認ができること。回送依頼・取り消しもできること。	○				
111	一覧画面で回送状況・回送依頼状況（回送資料名、回送元館名、回送先館名、回送日等）が確認できること。	○				
112	発注画面で、複本等の所蔵状況一覧が表示できること。自館／全館の表示切り替えもできること。	○				

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		113	発注画面で、予約状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切り替えもできること。	○		
		114	TRCの継続発注に対応できること。また、継続契約データ、継続発注データの管理が複数年度に渡ってできること。	○		
		115	発注入力画面では、発注先、選書区分、所蔵館、排架区分、資料種別、禁帯区分、別置記号、予算館、予算費目、選書日、備考等の登録・修正ができること。	○		
		116	登録した発注データから、発注先、選書区分、購入館、データ入力日等の条件でリストを出力できること。	○		
	2-1-3_受入 処理	117	TRCのローカルデータを取り込み、受入処理ができること（ICタグ運動）。	○		
		118	MARCの取り込みができること（TRC-MARC、JAPAN MARC等）。	○		
		119	資料バーコード・ICタグ（資料コード）および発注短冊のスキヤンにより受入・検収処理ができること。	△		
		120	発注処理を経ない資料についても、受入処理ができること。かつ、付録資料や連絡事項の管理ができること。	○		
		121	資料コードやISBNをICタグ運動により入力、またはバーコード読み込みすることによって受入・検収処理ができること。	○		
		122	受入データを任意の項目で指定し、受入チェック帳票の印刷出力及びCSV形式等の標準的なフォーマットで出力ができること。	△		
		123	発注月日毎の未納品リストをCSV形式等の標準的なフォーマットで書店毎にファイル出力できること。	△		
		124	請求記号付与は、個別入力のほか、本図書館が資料種別等毎に指定する付与方式により、書誌の分類データや著者名等を参照して自動付与する機能を有すること。	○		
		125	予約情報の登録された発注データを受け入れたときは、それを画面表示するなどして操作職員に通知するとともに、排架時に割当票のレシート出力すること。	○		
		126	所蔵館・排架区分・資料種別・請求記号・予算区分・帯出区分・受入区分・受入年月日・発注先・本体価格・受入価格等の情報が管理できること。	○		
		127	継続契約資料の受入ができること。	△		
		128	図書受入リストが出力できること。リストは受入日、所蔵館、資料コード、資料種別、資料形態、予算館、予算費目、受入区分等で絞り込んで出力できること。また、受入区分で絞り込む場合、納入者検索画面を起動し検索結果を引用できること。排架日を基準とし、所蔵館、排架日等で絞り込んでリストが出力できること。	○		
		129	発注管理ファイルと受入管理ファイルのデータを定期的にマッチングさせて、未納入図書リストを書店毎に出力できること。	○		
		130	検収前の資料は貸出不可とし、検収後に貸出可能とすることができること。	○		
	131	受入後、任意で設定する一定期間、新着資料として識別することができること。	○			
	2-1-4_A V 管理	132	曲名・演奏者等A V資料独自の項目を設定でき、その情報を完全可変長入力検索対象とできること。その他、図書資料とはほぼ同じ登録処理ができるものとする。	○		
		133	視聴覚資料についても、図書と同様のデータ管理を行えること。	○		
	2-1-5_逐次 刊行物管理	134	各種可変長MARCデータは完全に取り込むことができること。（完全可変長項目数対応）	○		
		135	タイトルとそれに付随する各巻情報の全てを可変長入力し、検索対象とできること。その他、図書資料と同等の登録処理ができるものとする。	○		
		136	雑誌書誌登録では、誌名・出版者・出版年・創刊年・刊行頻度・分類・副誌名・異誌名区分・開始巻号・最新巻号・終了巻号・注記・巻号注記等の基本情報が登録・修正・削除できること。	○		
		137	巻号情報では、巻号名・特集記事・発行日・巻号・通番・件名・価格情報等の登録・修正・削除ができること。受入済データも同様に処理できること。	○		
		138	雑誌書誌情報の登録と共に、発注書店名等の契約情報が登録できること。	○		
		139	所蔵登録画面では、所蔵館・場所区分・請求記号・帯出区分・受入先・資料区分等の登録・修正・削除ができること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		140	翌年度の契約データが作成できること。また契約データは履歴として残り、必要に応じて参照できること。	○		
		141	契約価格、支払価格及び購入・寄贈等の受入区分等を管理して受入処理ができること。	○		
		142	受入時に自動的に最新号を貸出禁止にし、前号を貸出可能にすること。	○		
		143	受入処理では、受入済みの巻号を同時に10件以上表示でき、巻号の昇順／降順でソートできること。	△		
		144	所蔵雑誌一覧（リスト）をCSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	○		
		145	発行年月日が重なる「別冊」や「付録」などの巻号情報や、「合併号」や「増刊号」などの任意の文字列を登録できること。	○		
		146	巻号毎に目次情報、特集、巻号注記等の情報が登録することが可能で、その情報が業務用検索及びOPACの検索対象になること。	○		
		147	実際に受入を行わない巻号でも、巻号情報の登録はできること。	△		
		148	図書と同様にCD-ROM等の付録、添付資料を管理できること。	○		
		149	記事・内容を完全可変長で登録できること。	○		
		150	複数の巻号を合本（製本）し、資料コードを与えて登録できること。その際、巻号毎の目次情報、特集名、巻号注記等の情報は合本した資料に引き継がれること。	○		
		151	一度行った合本（製本）を解除して、元の巻号に戻すことができること。	○		
		152	タイトル毎に保存年限を設定でき、それにより一括除籍処理ができること。	○		
		153	各巻号の特集情報・目次情報・記事情報、責任表示情報、件名情報、被伝者情報、ISBN情報、付録資料注記、郷土注記、その他注記等の付随事項が登録できること。	△		
		154	所蔵登録画面では、所蔵館・場所区分・請求記号・帯出区分・受入先・資料区分等の登録・修正・削除ができること。	○		
		155	共通雑誌コードをバーコードリーダで読み取り、受入時に利用できること。	△		
		156	最新号を受け入れた時点で自動的に最新号を貸出禁止にし、前号を貸出可能にすること。	○		
		157	タイトルが改題された場合、変遷前タイトル書誌と変遷後タイトル書誌の関連付けができ、検索でいずれかのタイトルでヒットしても関連タイトル書誌情報が参照できること。また、複数のタイトル書誌の合併や1つのタイトル書誌からの派生・分離にも対応できること。	○		
		158	巻号を「巻・号・通巻」で管理する場合、前号の巻号書誌情報より、自動で巻号を予測し初期表示できること。	○		
		159	タイトルなどがカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りができること。	○		
		160	巻号一覧の機能とは別に1タイトルで巻号情報をまとめる機能（一括所蔵表示）があること。また、検索機能で一括所蔵表示もできること。	○		
		161	所蔵登録画面でタグ等の切替により1画面で、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。	○		
		162	刊行頻度を表示可能であること。	○		
		163	雑誌情報は、図書館で任意に修正可能であること。	○		
		164	雑誌一覧から雑誌を選択することにより、その雑誌の所蔵一覧へ移り、さらに資料を選択することにより資料の詳細情報を表示し、資料の状態を確認、予約入力画面へ移ることができること。	○		
		165	雑誌一覧から非表示とする雑誌タイトルを任意で設定できること。	○		
	2-1-6_予算管理	166	発注時処理から予算の差し引き処理が自動連携できること。	○		
		167	受入処理から予算の差し引き処理が自動連携できること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		168	年度毎・月毎に予算額・発注額・受入額・予算残額・受入残額が管理できること。入力は各区分を細かく設定して行い、表示は各区分の詳細／全体表示が可能で、CSV形式等の標準的なフォーマットでデータ出力ができること。	○		
	2-1-7_資料 検索	169	タイトル、タイトル関連情報、著者名、出版者名、出版年、件名、内容注記、雑誌特集名、分類、各種コード（ISBN、ISSN、書誌番号、資料コード、請求記号、発注番号等）をはじめ、書誌情報についてはTRC-MARC等の外部データで登録される多様なデータ項目、所蔵情報については本図書館の予算管理、発注・受入処理及び所在管理で付与される各種のデータ項目をキーとして検索できる機能を有すること。また、これらのキーを組み合わせでAND/OR/NOT検索できること。	○		
		170	内容細目、注記等に入力した分かちなしデータの全文検索機能を有すること。	○		
		171	視聴覚資料の場合、各資料収録の曲名・演奏者・1曲毎の収録内容からの検索にも対応できること。	○		
		172	典拠ファイルを利用し、同名異人特定検索、ペンネーム等の別名の検索等、多角的な検索処理ができること。	○		
		173	資料区分（図書、雑誌、視聴覚）を横断的に検索できること。また限定して検索できること。	○		
		174	所蔵の有無、発注中資料の混在検索ができること。発注中資料については、資料一覧等で確認できること。	○		
		175	所蔵館を指定して検索が行えること。	○		
		176	資料区分・資料種別・排架区分・所蔵状況・状態区分・出版年・所蔵館等で絞り込みができること。	○		
		177	除籍資料を端末毎に検索対象・非対象にできること。	○		
		178	ヒット件数を任意に制限する設定が可能で、その件数を越える場合はメッセージを表示して検索を中止すること。	○		
		179	検索結果の画面表示は一覧表示が可能で、1書誌1行で表示すること。	○		
		180	検索結果の該当件数が一定数を超えない場合、自動的に一覧を表示すること。	○		
		181	検索結果一覧の表示方式を書誌単位で表示後、少ない手順で所蔵単位で表示可能であること。	○		
		182	検索結果一覧には、予約数・注文数・貸出可能数・所蔵数の情報が表示できること。	○		
		183	記事内容で検索した場合は、結果一覧に見つかった記事の内容とその雑誌のタイトルおよび巻号が表示できること。	○		
		184	検索結果一覧は再度検索せずに並べ替えができること。並べ替えのソートキーは一覧表示をする全項目とする。	○		
		185	検索結果の絞り込みが行えること。また、検索結果を保持しつつ、新しい検索キーワードを追加して検索することが可能であること。	○		
		186	検索結果一覧からの項目の取捨選択等により、任意の資料リストを作成する機能を持ち、これを印刷出力及びCSV形式等の標準的なフォーマットによるファイル出力ができること。また、出力項目を職員が任意に設定することが可能であること。	○		
		187	書誌詳細画面にて、書名・著者名・出版者・出版年月・タイトルコード・書誌種別・大きさ・頁数・ISBN・副書名・分類・内容紹介・著者紹介等を表示できること。	○		
		188	書誌詳細画面にて、貸出情報、予約情報、発注情報が表示できること。また、書誌修正、所蔵状態修正、発注、受入、予約画面へ展開できること。	○		
		189	書誌詳細画面にて、利用状況を表示し、貸出中利用者の詳細画面へ展開できること。	○		
		190	書誌詳細画面にて、予約者状況一覧を表示し、予約中利用者の詳細画面へ展開できること。また、そこから予約解除ができること。	○		
		191	書誌詳細画面にて、巻号一覧より特定の巻号を選択すると所蔵・利用・予約者等の状況が表示できること。そこから修正・予約の画面へ展開できること。	○		
		192	書誌・所蔵の詳細表示から排架図を表示できること。また排架場所の表示は排架区分や別置記号、請求記号の範囲等を組み合わせ、本図書館で任意に行えること。	○		
		193	詳細表示に記載されている情報は、表示中の情報を印刷出力及びCSV形式等の標準的なフォーマットによるファイル出力ができること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		194	検索履歴を持ち、履歴を呼び出して使用するには再検索することなく一覧表示までできること。また、検索の履歴蓄積件数に制限がないこと。	○		
		195	検索キーの入力については、検索履歴を参照した文字入力の予測変換が可能なこと。	○		
		196	資料検索の後、その資料の情報を維持したまま、貸出・予約・発注処理等へ移行できること。	○		
		197	TRCの発注管理MARCやTOOLiパッケージ連携機能を利用して、新刊資料の検索処理ができること。	○		
		198	検索条件の初期表示値を設定できること。	○		
		199	資料検索結果から複数の資料を選択し、一括して資料利用票（レシート）を出力することが可能であること。	○		
		200	書誌情報だけのデータについて、レシートに出力することが可能であること。	○		
		201	検索を実行した場合、どのような条件の場合でも、検索時間をかけず抽出結果を即時表示できること。	○		
		202	ローカル項目（資料種別、所蔵館、保管場所、所在館、状態区分、受入形態区分、貸出区分、受入先、予算区分、購入区分、媒体区分、利用対象、流通区分、刊行形態）の組み合わせを絞り込み条件として選択可能であり、任意に絞り込みのパターンとして上記区分の組み合わせを保持できること。	○		
		203	検索結果から所蔵の状態（不明資料・除籍・貸出中等）の把握ができること。また、複本検索に対応していること。	○		
		204	資料検索結果一覧の初期表示順の設定ができること。	○		
		205	雑誌のタイトル情報のみを対象として検索ができること。	○		
		206	資料詳細で所蔵毎の最終利用者を表示できること。（返却後の資料等に物がはさまっていた場合等の対応）プライバシにも考慮し、表示しないこともできること。資料別利用者リストの表示または非表示の選択ができること。	○		
		207	検索結果一覧画面から明細行をクリックすることで、複本一覧画面・発注画面・目録画面・予約画面・資料詳細画面へ展開できること。	○		
		208	検索結果の書誌一覧内に代表サブタイトルを表示できること。また、選択中の書誌に対応する全サブタイトルを一覧外に表示できること。	○		
		209	検索結果から所蔵状態（不明資料・除籍・貸出中等）の把握・修正が行えること。	○		
		210	検索結果一覧画面から、MARCタグ単位の書誌情報一覧画面に移動できること。	○		
		211	検索結果一覧で、現在貸出可能、貸出中、他館貸出可能、所蔵なし資料等を背景色または文字色で色分けして表示できること。	○		
		212	予め画像や音声登録した資料であれば、資料詳細画面からその画像や音声を参照することができること。	○		
		213	資料詳細情報確認画面から、書名、著者、出版者のリンク表示を行い、各項目をクリックすることで、選択項目を検索条件とした検索処理を実行することができること。	△		
		214	一定の目的、テーマやカテゴリ、シリーズ等により、書誌項目をグループ化して表示できること。	○		
2-2_目録管理業務	2-2-1_書誌管理	215	図書館所蔵情報と同時に、未所蔵資料の検索をTOOLiサーバと連携して実施できること。	○		
		216	TOOLi連携検索時に、書名、著者名、件名などをAND/OR検索できること。	○		
		217	TOOLi連携検索時に、検索結果のタイトル一覧を、文字色や背景色を変えるなど所蔵データと区別して表示できること。	○		
		218	TOOLi連携検索時に、検索結果の詳細情報の表示が行えること。	○		
		219	TOOLi連携検索時に、詳細情報からデータのダウンロードを行い図書館データベースに取り込むことが可能なこと。	○		
		220	MARCナンバー・ISBN等で書誌情報の二重登録をチェックできること。	○		
		221	TRC-MARC Uタイプ、Tタイプ（可変長）の全項目を完全に取り込み、項目の変更・追加が容易にできること。	○		
		222	資料形態が入力でき、検索できる機能を有すること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		223	バーコードラベルの印字出力ができること。	△		
		224	所蔵場所・所蔵状態・除籍・禁帯出等の変更処理が単独でも一括でもできること。	○		
		225	外部データの利用のほか、自館業務システム上で独自に目録作成・修正・削除が可能であり、業務システムに登録したデータの修正、削除及び書誌や所蔵の付け替え等の処理ができること。	○		
		226	TRCの目次情報、内容細目情報、典拠情報、学習件名情報を一括して登録でき、検索に活用できること。	○		
		227	雑誌所蔵データに請求記号の項目を有すること。	△		
		228	書誌情報登録後、容易に所蔵コード・所蔵場所等の所蔵情報の新規登録・修正登録ができること。	●		
		229	書誌番号を自動付与して、書誌データの管理ができること。	○		
		230	書名・著者名等の入力時に、漢字入力したとおり自動で読み振りができること。	○		
		231	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。	○		
		232	図書館で所蔵している資料のうち、複本を含め最後の一冊を除籍するときは、警告メッセージを表示すること。またメッセージ表示の有無を選択できること。	○		
		233	登録データの一覧表が作成できること。またバーコード付きでも出力できること。	△		
		234	登録済の書誌情報を複写して、書誌情報の修正・追加後、新規登録ができること。	○		
		235	不要となった書誌情報の削除が可能なこと。	○		
		236	内容細目入力の際には、1つの書誌に対して制限無く登録できること。また人名についても制限無く登録できること。	△		
		237	1つの書誌に複数の所蔵が紐付け等、複本のデータが管理できること。また、複本資料も、既登録資料のMARKデータを利用して登録できること。	△		
		238	登録されている分類データ（NDC8版／NDC10版）を追加・修正・削除・検索できること。検索結果一覧はCSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。また、独自に郷土分類を作成できること。	△		
		239	TOOLi等のMARCデータを直接取り込んで書誌を登録できること、また、TOOLiのダウンロード機能を利用して、個々の書誌情報の登録が可能なこと。	○		
		240	定期的にTOOLiサーバ上のMARCデリバティブファイルを確認し、新規（未処理）のMARCデータファイルが配信されている場合には自動的にダウンロードおよびMARC変換・展開処理を実行できること。	○		
		241	一定の目的、テーマやカテゴリ、シリーズ等により、書誌項目をグループ化して登録できること。	○		
		242	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整理する為の序数の自動付与ができること。	○		
		243	所蔵登録画面でタグ等の切替により1画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。	○		
		244	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。それぞれの入力文字属性に応じIMEのON/OFF制御ができること。	○		
		245	TRC-MARC：新刊MARC（発注管理MARC）、抽出MARC（TRC-U、TRC-T）、ローカルデータを項目のもれなく一括登録できること。※新刊全件MARCは対象外	○		
		246	MARC21フォーマットに準拠した目録管理が可能であること。	○		
		247	該当資料が手元に無い場合でも検索から該当資料を発見し、ローカル情報の変更処理ができること。	○		
		248	コード値（所蔵場所コード等）入力時、ドロップダウンボックス等によるコード一覧から選択入力できること。また、キーボードより直接コード値入力もできること。コード選択時は名称にて一覧から選択できること。	○		
		249	バーコード入力により、所蔵場所コード等、区分・コード値変更を連続でできること。また、変更履歴の画面表示、およびバックアップとして変更内容の保存／復元ができること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		250	MARCデータと装備されたバーコードに誤りがあった場合など、書誌（タイトル）情報とローカルデータがミスマッチの時、バーコードの貼り替えをせず、データ側を組替えて対応することができること。	○		
		251	装備されているバーコードが汚れ等で読取できなくなり、別の番号でバーコードを貼り替える場合、各種データのバーコード番号も同期をとって変更できること。	○		
		252	館内OPAC及びインターネット向けサービス（Web-OPAC）で紹介する推薦資料のバーコード指定を、オンライン登録（バーコード入力）／ハンディターミナルからの一括登録のどちらでも可能なこと。	○		
		253	推薦資料のバーコード指定資料は、一覧印刷、CSV形式等の標準的なフォーマットで出力が可能なこと。	○		
		254	各種AV-MARCに対応していること。	○		
		255	所蔵資料の資料区分・統計分類毎に点数・金額を集計し、内訳表を出力できること。	○		
		256	集計結果を画面で確認でき、必要に応じて印刷できること。	○		
		257	複本一覧画面にて貸出中の資料表示時、ワンクリックで利用者詳細画面へ展開し、利用者氏名、電話番号等が確認できること。	○		
		258	複本一覧画面にて貸出中の資料表示時、ワンクリックで貸出一覧、予約一覧画面へ展開し、貸出中資料、予約中タイトルの確認できること。	○		
		259	複本一覧画面にて貸出中の資料表示時、ワンクリックで督促連絡依頼表の出力画面へ展開し、督促連絡依頼表を出力できること。	○		
		260	複本一覧画面にて、以下の項目の日付を表示できること。 最終利用日・資料確認日・最終更新日・初回不明確認日・最終不明確認日・不明本発見日・除籍予定処理日・除籍処理日・貸出日・督促日・督促連絡日・前回貸出日・前回返却日・前回継続貸出日	○		
		261	書誌一覧画面、もしくは、複本一覧画面から、書誌登録、所蔵登録、予約・発注処理の各画面に展開できること。	○		
		262	ローカルデータで「所蔵館」「所在館」等の詳細情報を管理して分館連携に対応できること。	○		
		263	ローカルデータに定型コメントおよびフリーコメントを入力できること。	○		
		264	ローカルデータを資料バーコード読み込みによる連続変更および条件の範囲指定による一括変更ができること。（所蔵館・場所変更・禁帯区分等の付与・変更、コメントの付与等。）	○		
		265	資料の除籍・復籍処理が連続で行えること。	○		
		266	特集（企画展示）へ登録した資料の所蔵館、保管場所を一括で変更できること。また、特集（企画展示）終了後は変更前の所蔵館、保管場所に一括で戻ること。	●		
		267	特集（企画展示）の終了後に、登録資料の所蔵館、保管場所を変更前の内容に一括で戻せること。また、毎年定期的に展示する特集（企画展示）のテーマと登録資料（特集で選書した資料）の情報を保持することができ、特集を再度行う場合、過去の目録情報を参照し、容易に一括選択・所蔵等の変更ができること。	●		
		268	一時停止した特集（企画展示）を復帰処理させることで、特集（企画展示）を再開できること。【例】クリスマス特集を、次年度も再利用できる。	●		
		269	特集（企画展示）へ登録している資料一覧を印刷できること。	●		
		270	特集（企画展示）へ登録している資料の目録情報が参照、出力できること。	●		
		271	特集（企画展示）の終了は自動または任意のタイミングで、手動により行えること。	●		
		272	推薦本等の外部公開蔵書データの作成に、特集資料管理機能を利用できること。	●		
		273	貸出期限日・所蔵館・資料種別・除籍対象外貸出状態区分で特定した未返却資料を、一括で除籍できること。	○		
		274	未利用資料の一覧が印刷できること。また「最終貸出日」「最終確認日」を出力できること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入	
中分類	小分類	項番					
		275	未返却資料一括除籍処理の検索結果一覧で、前回除籍実行した時の条件を保存し、初期値としてその条件を表示できること。	○			
		276	資料の除籍をする際、該当資料が貸出中のときは、強制的に返却処理をするかしないか選択できること。	○			
		277	書誌データの形式は国立国会図書館ジャパンMARCフォーマット仕様に対応していること。	○			
		278	MARCのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。	○			
		279	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。この時、NDC 8 版 / 10 版の版数指定もできること。	○			
		280	NDC分類での登録以外に、所蔵登録画面で独自の分類を登録（二重登録）でき、業務画面及び館内OPACで排架場所を含めて検索可能にすること。	○			
		2-2-2_典拠管理	281	典拠データを利用してMARCデータを登録できること	○		
		282	外部の人名典拠ファイルからの一括登録も可能なこと。	○			
		283	TRCの典拠情報を取り込むことができ、更新データが上書きされる仕組みがあること。また、検索に活用できること。	○			
		284	典拠キーまたは典拠コードのいずれかを入力して、典拠の検索が行なえること。	○			
		285	典拠キーを入力した場合は、典拠区分を選択し検索内容を絞り込めること。	○			
		286	検索結果を一覧表として出力できること。	●			
	287	検索結果一覧より、選択した典拠に対する書誌一覧・典拠参照・相互参照画面を表示できること。	●				
	288	典拠管理について、追加データの統合、解除が行えること。	●				
	289	典拠管理は、少なくとも著者名、出版者、叢書名（シリーズ）、件名、学習件名で行えること。	○				
	290	典拠情報の登録、修正、削除が行えること。	○				
	291	典拠情報はCSV形式等の標準的なフォーマットによるファイル出力ができること。	●				
	292	典拠は統一形、記述形の関連性を持たせて管理できること。	○				
	293	複数の典拠情報を関連付ける相互参照の登録及び解除ができること。	●				
	294	市販の典拠情報と独自の典拠情報を共存させて管理できること。	○				
	2-2-3_目録リスト	295	資料区分、所蔵館、資料形態、請求記号、その他のコード（受入日、言語区分、索引等）を指定し、索引付きの目録のリストを出力できること。	○			
	296	書誌・所蔵の内容を冊子体で印刷できること。	●				
	297	弁償待ち資料の一覧が作成、印刷できること。	○				
	298	除籍資料リスト一覧画面、除籍予定リスト及び除籍リストに以下の情報が出力できること。 全館の複本冊数・全館の利用可能冊数・最終利用日・通算貸出累計数・本年度貸出累計数	○				

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
2-3_所蔵管理	2-3-1_所在管理	299	資料の所在情報の管理ができること。	○		
		300	資料コードの入力またはハンディターミナル等を利用して任意の資料コードをグループ化し、その全てを他の所在区分や禁帯出区分に一括変更できること。	○		
		301	資料の所在変更、除籍等の処理ができること。所在変更や除籍対象資料について、事務処理に必要な資料一覧表をCSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	○		
		302	資料検索の結果を引用して、所蔵の状態を変更できること。また、更新エラー情報を一覧で確認できること。エラー情報はCSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	○		
		303	展示コーナーの資料を抽出し、リストが作成出来ること。また、展示コーナーに排架していた時の貸出統計が取れること。	○		
		304	展示コーナーへの排架は、一括で処理出来ること。また、展示コーナーから元の排架へも戻す処理も一括で出来ること。	○		
		305	資料コードの一括入力により資料の所在変更、除籍等の処理ができること（ICタグ運動）。所在変更や除籍対象資料について、事務処理に必要な資料一覧表をCSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	○		
		306	ハンディターミナル（ハンディ端末）で読み取った資料の所蔵状態を一括変更できること。	○		
		307	所蔵状態変更時、変更前の資料情報と変更後の資料情報を確認できること。	○		
		308	除籍資料の一覧を、CSV形式等の標準的なフォーマットで出力でき、印刷ができること。	○		
		309	除籍データの一括削除処理ができること。また、雑誌は巻号や目次情報も同時に削除できること。	○		
		310	雑誌一括除籍で、保存期限日を条件に追加することによって、指定した日付の時点で除籍になる雑誌を検索できること。	○		
		311	一括処理時、強制返却・割当処理の実行有無について設定ができること。	○		
	312	任意の資料を選択し、資料バーコード一覧として出力することが可能であること。出力項目は任意に設定可能であること。資料検索結果の引用、ハンディターミナルからの転送等で作成することが可能であること。また、一覧作成画面にて資料の詳細情報が確認できること。	○			
	2-3-2_蔵書点検	313	蔵書点検前処理等の事前処理無しで、蔵書点検が開始できること。事前処理がある場合でも、その後の待機時間がなく行える場合は可能と認める。	○		
		314	オンライン、オフラインの両方で蔵書点検ができること。	○		
		315	蔵書点検中に通常返却処理を実施することが可能であり、返却された資料は点検済みとなること。	△		
		316	一定（任意指定可）回数以上の不明資料を一括で除籍に変更できること。なお、除籍資料は任意に復籍もできること。	○		
		317	館（及び場所）毎に、資料区分（図書、雑誌、視聴覚）、排架区分、請求記号の範囲等の細かい単位での蔵書点検ができること。	○		
		318	蔵書点検用のハンディターミナルを使用するほか、業務用クライアントPCでも蔵書点検のためのバーコードスキャンができること。	○		
		319	バーコード付きの蔵書点検リストが出力できること。	○		
		320	資料コードの連続読み込み処理等により、所蔵データの照合及び不明資料リストの作成等の蔵書点検処理ができること。	○		
		321	蔵書点検後、判明した不明資料、エラー資料（未登録・未返却・除籍・排架違い等）を資料区分毎・排架区分毎に一覧で、CSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	○		
		322	蔵書点検で発見された書架内の貸出中資料は返却、不明資料は不明解除等の処理を行うこと。	○		
323		点検を行ったデータはファイルに保存し、このファイルを使用して点検処理のやり直しが何度でもできること。	○			
324		以下の帳票が出力できること。また各資料のバーコードもあわせて印字すること。点検リスト、エラーリスト、点検フラグエラーリスト、不明除籍資料リスト、貸出資料リスト、状態区分エラーリスト、不明解除資料リスト、除籍設定資料リスト、不明設定資料リスト、排架相違リスト	△			

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
	2-3-3_背ラベル・排架	325	背ラベルをラベルシートに出力できること。背ラベル出力時には、背ラベルとともに資料コードの出力が選択できること。背ラベルは本図書館で使用する背ラベルシートに出力できること。フォントの種類およびサイズが指定できること。	○		
		326	資料コードの入力により、資料ラベル（バーコード）の出力ができること。	○		
		327	OPACで表示する排架案内図の設定を、容易に設定変更ができること。	○		
		328	資料ラベル付け替え機能を有すること。	○		
		329	任意の資料リストを作成・出力できること。	○		
3_窓口業務						
3-1_窓口全般業務	3-1-1_画面表示／構成	330	資料に対して、複数のコメントを通知する機能を持っていること。（付録、汚破損状況等を定型文・自由文で随時入れられること）	○		
		331	資料情報および利用者情報に付加するコメント（定型文、自由文）の数に制限がないこと。	○		
		332	コメントの注意音は、貸出時のみ・返却時のみのようにコントロールできること。	○		
3-2_利用者管理	3-2-1_利用者データ管理	333	利用者の登録、既存利用者の登録情報の修正、登録利用者の除籍、利用者カード紛失時等の再発行処理を行えること。	○		
		334	利用者カードの有効期限終了後、一定期間更新のない利用者データは一括削除または無効にできること。またその際、予約・貸出情報のある利用者は除外できること。	○		
		335	住所情報（郵便番号、住所）の入力については、郵便番号辞書ファイルを利用して、郵便番号から住所、住所から郵便番号を参照・引用するなどの、入力支援機能を持つこと。また、将来の郵便番号及び地名変更時にも対応できる機能を有すること。このとき、市区町村コードも自動的に設定されること。	○		
		336	新規登録時、利用者検索により未登録であることを確認後、検索条件を保持したまま登録画面に移行できること。	○		
		337	利用者データとして、利用者番号、氏名、氏名カナ（読み）、保護者名、性別、生年月日、郵便番号、住所、市区町村コード、電話番号、電子メールアドレスが登録できること。またその管理項目として、利用者種別（個人・団体など）、在籍区分（在籍・無効、二重登録など）、有効期限、登録・更新情報（登録館、登録日、更新日など）、再発行回数、最終利用日も登録できること。ただし、登録館、登録日は、登録後に修正変更ができること。	○		
		338	利用者データの補足情報として、図書館からの連絡を受ける際の希望情報（連絡手段、連絡時間帯、連絡曜日など）も登録できること。また、予約や督促を実施する際に利用できること。	○		
		339	利用者データの登録・修正業務にあたり、郵便番号や住所名略称で住所検索ができること。	○		
		340	広域の市町村コード等も含み、利用者登録時に選択できること。	○		
		341	住所については、現住所のほか勤務先（学校）や帰省先などの内容（郵便番号、住所、名称）も登録できること。	○		
		342	新規登録時の必須項目は、利用者番号、利用者区分、氏名カナ（読み）、生年月日、性別とし、これ以外の項目は未入力・未設定であっても仮登録でき、仮登録後の入力でも登録とすることができること。また、利用者区分、性別については選択方式とし、選択しなくても初期値が設定されること。	○		
		343	新規登録者のうち、本登録が完了していない利用者の一覧を確認できること。	○		
		344	新規登録時には、氏名カナ（読み）、性別、生年月日、電話番号による二重登録チェックが自動的に行われ、重複があった場合は登録処理を続行するか確認・選択するメッセージを表示すること。	○		
		345	新規登録時には、既に登録している利用者の情報を複写利用できること。また、既存の利用者登録に同一の電話番号のデータがあるときには、住所データの引用ができること。	○		
		346	氏名を漢字入力した時、キーボード入力の内容に従い、フリガナを氏名カナ（読み）へ自動付与できること。	○		
		347	生年月日の入力は、和暦、西暦のどちらでも可能なこと。年齢については自動計算すること。	○		
348	登録の際に、予め設定している年齢に満たない利用者の場合は、保護者氏名の登録欄があること。	△				

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		349	視覚障害や四肢障害、知的障害、精神障害などの事由により、図書資料の閲覧や貸出返却において職員の支援や配慮が必要な利用者については、バリアフリーに配慮できるよう、障がいの種別や対応方法等の必要最低限の本人情報をコメント等で登録できること。	●		
		350	登録（修正）処理した利用者の履歴を参照することができ、次利用者の登録・修正処理にそのデータを活用できること。	○		
		351	電話番号については、自宅、携帯、勤務先、帰省先など複数の番号を3件程度登録できること。また、電話番号毎に内線や呼出などの備考（コメント）も合わせて登録できること。	○		
		352	予約受付の際に、登録した複数の電話番号の中からその都度任意で連絡先を選択できること。	○		
		353	電子メールアドレスについては、PC用と携帯電話用を区別せず、複数登録できること。また、メールアドレス毎に備考（コメント）も合わせて登録できること。	●		
		354	登録した電子メールアドレスについて、確認メールを送信できること。	○		
		355	利用者の有効期限の管理を行うことができること。尚、貸出、返却画面にて、有効期限切れ前の事前チェックが可能なこと。	○		
	3-2-2_利用者検索	356	利用者氏名（カナ・漢字・全半角混在可）・生年月日・電話番号・利用者番号等、登録内に基づき利用者の検索処理が行えること。また、電話番号による検索では、ハイフンまたは市外局番なしでも検索できること。	○		
		357	上記の登録データからのみではなく、カード紛失や貸出停止中等利用者のステータスからも利用者検索が行えること。	○		
		358	利用者検索の後、その利用者の情報を維持したまま、貸出・予約処理等へ移行できること。	○		
		359	利用者検索の後、利用者詳細情報（貸出情報・予約状況等）をワンクリックで表示できること。	○		
		360	利用者検索の後、特定した利用者情報の修正ができること。	○		
		361	検索欄（検索ボックス、フリーワード欄等）にキーワードを複数入力することにより、AND検索が可能であること。	○		
		362	入力した検索条件に該当する利用者と、その利用者に対して事前に関連付けした家族利用者を同時に検索し、検索結果にまとめて表示できること。	○		
		363	入力した検索条件に該当する利用者と、電話番号、もしくは、住所が一致する利用者を家族利用者として同時に検索し、検索結果にまとめて表示できること。	○		
		364	検索結果画面は、条件入力画面と同一画面で表示されること。	○		
		365	検索結果を一覧で表示できること。項目の種類・幅・順番を任意に設定できること。	○		
		366	利用者数の地区別集計を出力できること。	○		
		367	検索カーソルに入力した電話番号で、全ての連絡先の電話番号を検索できること。	○		
		368	利用者毎にメール発信履歴が参照できること。各種メール内容（督促・予約連絡等）とその発信日時が確認できること。	○		
	3-2-3_運用支援機能	369	検索結果で利用者の詳細情報を表示でき、氏名・電話番号・生年月日・年齢・住所・最終利用日・督促累積回数・有効期限・貸出資料一覧・予約資料一覧・コメント等が確認できること。	○		
		370	利用者へのコメント、利用者についての職員内周知を定型文からの引用や直接入力によるフリーコメントで複数登録できること。また、登録したコメントについては、貸出返却処理等で容易に確認でき、確認後は自動もしくは簡易な操作で削除できること。また、表示後自動削除も設定できること。	○		
		371	利用者公開用のコメントと、利用者非公開のコメントを区別して入力ができること。	○		
		372	①住所や電話番号などの変動的な登録内容について、宛先不明による郵便物の返送や、電話不通などにより登録内容に誤りが発生した場合は、過誤情報であることを設定できること。 ②貸出時などに利用者に対して確認ができる、またはそれを職員に促すことができる機能を持つこと。	○		
		373	利用者のメールアドレスやパスワード情報の登録ができ、Web情報の提供・利用者端末等での貸出・予約システムと連動できること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		374	登録された利用者のメールアドレスを、職員が使用不可設定することが可能で、Web-OPAC内の個人画面上でその旨の通知を表示させることができる。利用者が自身でメールアドレスの削除、変更、再登録をすると、自動で使用不可設定が解除され、図書館から送信されるメールサービスの対象とすることができる。	○		
		375	利用者の現在の状態（登録状態、カード紛失有無、情報確認の必要性）が画面上から確認できること。	○		
		376	利用者カードの有効期限は自由に設定できること。	○		
		377	Web-OPAC・館内OPAC・利用者マイページより、利用者自身でパスワードの変更設定ができること。	○		
		378	パスワード入力時の画面において、パスワードを表示・非表示を選択可能なこと。	○		
		379	パスワードを忘れた利用者は再度、利用者認証することでパスワードを再登録できること。	○		
		380	利用カードを再発行した際は、貸出、予約などのデータや、利用回数、予約数などの集計情報などの引継が自動的に行われること。また、旧カード（紛失したカード）の番号が履歴として確認でき、再発行回数も管理できること。ただし、住所や電話番号などの個人情報は、新カード番号でのみ存在すること。	○		
		381	利用者に対し貸出停止等のペナルティを与える運用を行うか否か選択できること。また、ペナルティ運用を実施する場合、利用者への適用の是非や貸出停止期間設定を職員の判断もしくはシステム上の自動判断で決定できること。	△		
		382	利用者サービス（マイページ（館内、Web-OPAC）、Webサービス、Web図書館）使用再開の許諾を職員判断で実施できること。	○		
		383	生年月日や有効期限等の条件に該当する利用者を抽出し、コメント情報を一括で更新できること。	○		
		384	家族の1人目を登録すると、以降は電話番号入力後自動で利用者データを複写し、氏名・生年月日・性別等を直すだけの連続登録ができること。このとき、電話番号はハイフン・括弧の有無に関わらず複写できること。	○		
		385	利用者毎の過去5年分の利用実績（貸出数、利用回数）を参照できること。	○		
		386	利用者一覧画面から選択した利用者の番号置換え・再発行・有効期限更新・一覧印刷が可能なこと。	○		
		387	利用者貸出一覧画面、利用者予約一覧画面、利用者詳細画面から、対象の利用者に対しE-Mailの入力画面を開き、連絡用のメールを送信する機能を有すること。	○		
		388	利用者の貸出一覧上で、連絡メールを送信したい貸出資料情報を選択し連絡できること。	○		
		389	督促通知・予約連絡等のメール送信の送信日時・送信結果が管理できること。	○		
		390	貸出中の資料について、貸出日、返却期限日、貸出館等から検索ができること。また、検索結果をCSV形式等の標準的なフォーマットで出力可能であること。	△		
		391	回送中の資料について、回送日、回送設定館等から検索ができること。また、検索結果をCSV形式等の標準的なフォーマットで出力可能であること。	○		
		392	弁償中の資料について、手続き日や経過月数等から検索ができること。また、検索結果をCSV形式等の標準的なフォーマットで出力可能であること。	●		
		393	ネットワークに支障が発生したときには、業務用クライアントを利用してオフラインによる貸出・返却処理ができること。また、停電などにより業務クライアントも利用できない場合は、ハンディターミナルを使用して貸出・返却処理ができること。	○		
		394	上記のオフライン貸出・返却情報は、ファイルとして蓄積されること。また、蓄積された貸出・返却情報は障害が復旧した後、簡易な操作で迅速にシステムへ反映できること。	○		
		395	システムへ反映した貸出・返却情報について、また反映できなかったエラー情報について一覧をCSV形式等の標準的なフォーマットでファイル出力できること。	○		
		396	紛失登録時から、任意の貸出状態を選択し、紛失日、メモを管理し、紛失資料の管理を行えること。	○		
		397	紛失登録した資料について、督促対象から除くことができること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		398	紛失した資料情報、利用者情報の帳票が用意されていること。 帳票の出力項目には、発行日、発行館、タイトル名、人名、出版社、出版年、分類、価格、ISBN、資料コード、所蔵館を印刷し、利用者に渡す前提の様式で印刷できること。	○		
		399	紛失登録画面から、除籍予定入力が可能であり、除籍予定入力日、除籍事由区分の入力が可能なこと。	○		
		400	貸出詳細画面から、紛失資料の弁償受領書または同等の書類を印刷できること。	○		
		401	貸出中資料を利用者が紛失した場合に、紛失中または弁償中という状態を管理できること。	○		
		402	紛失資料の一覧が、CSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	○		
		403	家族連携処理された利用者の基本情報・未返却情報等は、ワンクリックで相互に参照できること。	○		
		404	家族連携処理をする利用者は、登録時に確認作業を必要とすること。	○		
		405	家族連携登録をした利用者について、ワンクリックで家族の未返却資料一覧が表示できること。	○		
		406	返却手続きにおける関連利用者へのチェックにおいて、返却利用者と返却利用者の家族連携利用者を対象にするか否かを設定できること。但し家族については、予め設定した家族連携利用者に限定することが可能なこと。	○		
		407	利用者を修正する場合、同じ電話番号や住所を持つ利用者、または家族連携した利用者の情報も、選択により一括で修正できること。	○		
		408	個人情報保護のため、返却第一画面では利用者名は表示しないこと。利用者番号表示、また当該利用者の未返却資料数および延滞数（うち予約有り数）の表示を端末毎に設定できること。	○		
		409	返却処理後、過去の貸出データは消去されること。ただし、設定によって、返却完了後も、管理上返却した資料を誰が借りていたか確認することができること。返却履歴を保存する設定を行う場合は、ボタンで任意に履歴消去できること。	○		
		410	返却画面から貸出画面への展開は、利用者番号を読み込むだけででき、また、バーコードリーダによる画面切替えもできること。	○		
		411	利用者カードの読み込みまたは利用者番号の入力により、利用者情報（貸出情報・予約情報・督促情報・連絡事項・カード発行履歴）が表示できること。また、プライバシー保護の観点により、利用者名等の情報を初期表示するか否かが設定できること。ワンクリックで表示／非表示を切り替えできること。	●		
		412	利用者名、カード番号、有効期限、住所、電話番号、メールアドレス、貸出冊数、延滞冊数、予約件数等が確認できること。	○		
		413	利用者の基本情報（利用者ID、カード番号、利用者名、貸出冊数、貸出内延滞冊数、リクエスト件数、予約件数）、貸出資料一覧、予約資料一覧、延滞督促履歴一覧をCSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	●		
3-3_貸出・返却	3-3-1_貸出条件設定	414	中央館においては、自動貸出機による貸出を主としながら、カウンターにおいても資料の貸出を行い、個人貸出・団体貸出・相互貸借・館内閲覧に対応できること。	○		
		415	館別（中央館・分館等）、利用者種別（個人・団体等）、資料区分別（図書・雑誌等）、資料形態別（絵本・紙芝居・DVD等）、来館・郵送毎に、貸出冊数、貸出期間、延長回数、延長日数等の貸出条件（規則）が設定できること。また、場合によっては貸出冊数上限を無制限に設定できること。ただし、上限冊数の変更が発生した場合は、職員による設定変更が容易にでき、変更後すぐに全ての業務クライアントに条件を適用できること。	○		
		416	設定した貸出上限数を超過して、強制貸出ができること。	○		
		417	返却予定日の自動算出条件として、休館日をスライドさせるかどうかを、館別（本館・分館等）、利用者種別（個人・団体等）、休館日種別毎に設定できること。ただし、休館日の変更が発生した場合は、職員による設定変更が容易にでき、変更後すぐに全ての業務クライアントに条件を適用できること。	○		
	3-3-2_共通	418	利用者番号及び資料コードをバーコードまたはライトカード・ICタグ読み取りにより、貸出・返却処理ができること。利用者番号、資料コードは手入力でも処理できること。また、未登録資料であっても簡便な方法で貸出ができること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		419	カウンターにおいて資料コードのバーコード入力またはICタグ読み取りにより、連続で貸出または返却処理ができること。また、バーコード入力またはICタグ読み取り毎に貸出・返却が確定されること。	○		
		420	バーコード入力またはICタグ読み取り時、利用者に対するコメントを貸出画面及び返却画面に自動的に表示できること。	○		
		421	利用者に対するコメントは任意に追加・変更可能であること。また、不要になった時は任意に削除できること。	○		
		422	バーコード入力またはICタグ読み取り時、資料に対するコメントを貸出画面及び返却画面に自動的に表示できること。	○		
		423	資料に対するコメントは任意に追加・変更可能であること。また、不要になった時は任意に削除できること。	○		
		424	貸出時・返却時に表示するメッセージの表示・非表示が設定できること。	○		
		425	クライアント（端末）またはログインID毎に1日分の貸出返却履歴を持つこと。履歴は翌日に全て削除されていること。	●		
		426	不明・紛失または除籍となっていた資料が貸出または返却された際、そのことを画面上に通知し、自動的に不明・紛失・除籍を解除することができること。	○		
		427	資料毎に貸出履歴をもたせ、回数等のデータが蓄積されること。	○		
		428	利用者の居住市区町村別及び年齢区分別の貸出冊数統計が出力できる機能を有すること。	○		
		429	任意に設定した時間帯毎の貸出件数統計が出力できる機能を有すること。	○		
		430	貸出および返却処理において、利用者連絡や予約資料の返却等、職員が何らかの対処をするべき場合は、その旨のメッセージを警告音と共に表示し通知する機能を持つこと。また、「はい」「いいえ」等の確認ボタンにより、職員が処理継続を判断できること。	○		
		431	当館の利用者番号や資料コード以外のバーコードを読み込んだ場合、受け付けできないこと（ただし相互貸借で登録済の資料コードは除く）。	○		
		432	相互貸借の借受資料を相手館のバーコードで登録し、そのまま貸出・返却できること。バーコードの桁数やチェックデジットの仕様が異なっても、そのまま利用できること。	○		
		433	読み込んだバーコードが複数存在した場合（当館の資料コードと借受資料の資料コード等）には、選択画面が表示され、書名等から特定して選択できること。	○		
		434	画面上に当日の貸出状況（点数・利用人数）・返却点数をリアルタイムに準じて表示できること。表示する情報は、①当該端末の状況、または②当該図書館の状況・③全館の状況とする。	●		
	3-3-3_貸出	435	貸出は、利用者カード、資料バーコードまたはICタグの読み取り操作で行えること。また利用者カード読み、資料バーコードの読み込みの際、職員によるその切り替え操作が不要なこと。	○		
		436	利用者個人への貸出や団体貸出のほか、相互貸借によっても資料の貸出処理ができること。	○		
		437	貸出時、利用者の貸出可能数や返却期限を、画面移動することなく確認できること。	○		
		438	仮登録利用者に対して貸出処理ができること。	○		
		439	利用者カードを忘れた場合でも、利用者名、住所、電話番号等から検索し、身分証明書等により突合できた場合は、貸出処理が行えること。	○		
		440	利用者番号の入力・読込時、利用者の有効期限を確認可能で、期限切れの利用者の場合には、その旨を示すメッセージが表示されること。	○		
		441	自動貸出機を利用した利用者カードの有効期限が切れていた場合、自動貸出を中止し、利用者に対しカウンター照会を促すメッセージが表示されること。	○		
		442	利用者番号の入力・読込時、予約割当済資料の一覧を表示できること。	○		
		443	利用者の貸出中資料数、予約中資料数が画面表示できること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		444	利用者番号の入力・読込時、貸出中の資料の一覧を表示でき、延滞資料は別色表示すること。貸出資料の表示は1点1行とし、画面に10件以上の表示をすること。	○		
		445	貸出中資料一覧画面で、予約の有無や付録の有無が一目でわかるよう、記号や文字色で判別できること。また、判別のための記号や文字色を職員が設定可能であること。	○		
		446	貸出中資料一覧画面で、相互貸借によって貸出しているものと、通常の貸出資料は、別枠か文字色を変えて「相貸」等の表示をし、職員が見間違いないような表示ができること。	○		
		447	貸出時は、予め設定された貸出日数、カレンダー情報により、自動的算出された返却期限日を設定すること。また、マニュアルでも設定できること。	○		
		448	貸出冊数を超過した場合、操作員の確認後、貸出処理または取り消しが可能なこと。	○		
		449	レシート出力前またはライトカード書き込み前であれば、貸出取消ができること。また、貸出取消の操作は、複数件まとめて実施できること。	○		
		450	貸出情報画面より、貸出延長ができること。貸出延長期間は、延長ボタンをクリックすることで予め設定した期間にできること。また、貸出延長の操作は、複数件まとめて実施できること。	○		
		451	貸出更新を行う際は、更新回数及び予約の有無が確認できること。それが集計上の貸出冊数に反映されること。	○		
		452	貸出中資料一覧画面で、貸出延長済みの資料は文字色を変えて「延長済」等の表示をし、職員が見間違いないような表示ができること。	○		
		453	貸出処理実行後、レシートプリンタに貸出票の出力ができること。貸出票には、少なくとも、資料名、資料コード、返却期限日、貸出処理日、貸出窓口、及び本図書館で予め設定した最大50文字程度のテキストコメントが出力できること。また、再出力も可能なこと。	○		
		454	貸出票の出力先は、端末毎に指定できること。	○		
		455	貸出処理実行後、貸出資料の一覧をCSV形式等の標準的なフォーマットで出力でき、印刷が可能なこと。	○		
		456	予約していた資料を貸出すると、予約データが消去されること。	○		
		457	貸出画面より、利用者詳細情報（貸出状況・予約状況・督促履歴等）を表示できること。	○		
		458	貸出画面より、資料詳細情報（予約状況・目録情報・発注情報等）を表示できること。	○		
		459	貸出中資料一覧画面で、弁償中の資料は文字色を変えて「弁償中」等の表示をし、職員が見間違いないような表示ができること。また、弁償登録日を表示すること。	○		
		460	弁償処理を行った際、弁償対象の資料情報が記載されたレシートの出力が可能なこと。	○		
		461	館内のみ利用可能な資料等を、「館内閲覧」として貸出・返却処理ができること。またその実績を、館外貸出とは別の集計として、統計などに利用できること。	○		
		462	「館内閲覧」の貸出処理実行後、レシートプリンタに貸出票の出力ができること。また貸出票は、館内貸出と館外貸出で区別がつくこと。	○		
		463	「館内閲覧貸出」（貸出とは別にカウント）の返却期限日は、デフォルトで貸出当日とする。	●		
		464	返却されていない資料に対して貸出処理を行う場合は、前の利用者への返却処理を自動的に先行貸出処理ができること。その際、処理を続行するかを確認するメッセージを表示すること。	○		
		465	禁帯出資料の貸出可否及び貸出期限を任意に設定できること。	○		
		466	図書館、団体利用者には禁帯出資料でも帯出区分の変更等の操作無しに貸出ができること。	○		
		467	長期休館明けの開館日に返却期限日が集中されないように、事前に設定が可能こと。	△		
		468	カウンターの貸出処理では、バーコードまたはICタグで資料コードを読み込み、貸出確定した後、DBを更新すること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		469	自動貸出機による貸出処理では、ICタグで資料コードを読み込んだ時点で貸出確定し、DBを更新すること。	○		
		470	返却処理漏れ等の理由により、システム上は貸出中（未返却資料）扱いだが利用者から返却済みとの申し出があった資料について、一時的に仮返却資料または強制返却資料として貸出中資料から除外できること。また、督促対象からも除外できること。	○		
		471	利用者の仮返却管理中（または強制返却済み）の資料明細を確認できること。	○		
		472	仮返却資料のバーコードを走査した時、自動で仮返却状態を解除して貸出すこともできること。	○		
		473	不明資料を貸出処理すると、自動的に通常の状態区分に変更できること。	○		
		474	貸出画面から、利用者カードを読み込みにより、当該利用者の詳細情報表示や登録内容の更新が可能なこと。	○		
		475	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。カウンターでの処理では、貸出処理を続行するかメッセージを表示すること。	○		
		476	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること。（確認せず貸出させないこともできること）	○		
		477	貸出延長処理時、貸出統計にカウント「する」/「しない」が設定で選択できること。	○		
		478	貸出を行うと、利用者氏名、貸出本、返却予定日、貸出中本、予約待人数が記入された貸出情報が印刷され、利用者に渡すことができる機能を標準で有すること。自由なコメントも随時修正し、印刷できること。プリンタはレシートプリンタに対応できること。（※主に団体貸出向けを想定）	○		
		479	当該営業日の本館・分館毎の貸出冊数、貸出人数の概数を画面に表示できること。	○		
		480	図書館カレンダーの休館日を設定することで返却予定日を管理し、また貸出画面での随時変更も可能なこと。	○		
		481	図書館カレンダーは各館毎に設定できること。	○		
		482	各館毎に返却期限を設定できること。	○		
		483	貸出期間の変更が可能であり、その際にはキーボードからの入力のみならず一週間延長ボタンや、カレンダー画面表示からの選択の2種類が可能であり、入力の簡素化が実現されること。（資料区分毎に変更可能なこと。）	○		
		484	貸出基本画面より返却期限変更、利用者仮登録、利用者検索、貸出・予約一覧、利用者詳細情報へ展開できること。	○		
		485	貸出資料のバーコードまたはICタグの読み込みにより、貸出・返却画面切替および処理画面の起動が可能なこと。	○		
		486	貸出画面上から、利用者を検索した、貸出処理へ展開できること。	○		
		487	貸出資料の明細をクリックすることにより、資料データの詳細情報（書誌詳細、ローカル情報一覧）が表示ができること。	○		
		488	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。	○		
		489	資料詳細確認・修正処理に移行ができること（複本情報に対しても同じ処理が可能なこと）	○		
		490	利用者登録情報に誤りがあるときに、貸出画面で確認ができること。	○		
		491	資料種別（図書・雑誌・AV資料等）毎、館毎、利用者毎の貸出日数、延期日数、延回数、種別毎の貸出点数、合計貸出点数が設定できること。	○		
		492	貸出資料一覧から、資料の返却と所蔵状態を不明状態（強制不明）への変更を同時にできること。	○		
		493	貸出処理時に表示される明細は、「全館」から「自館」に表示を限定することができること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		494	利用者の貸出一覧の画面にて、貸出館を「全館」「自館」を切り替えて表示できること。なお、初期値の値については、設定で変更できること。	○		
		495	利用者の貸出一覧の画面にて、貸出一覧の表示は「貸出館・返却期限順」「貸出館・貸出開始日順」の設定が可能なこと。	○		
		496	各館かつ利用者資格毎に予約規則（予約有効日数・合計予約件数）設定ができること。さらに予約件数に関しては窓口・館内OPAC・Web-OPAC毎に設定ができること。	○		
		497	貸出一覧表示時、資料種別が表示されること。	○		
		498	貸出一覧から継続貸出、強制返却、貸出取消、期限変更、紛失登録等の処理が可能なこと。	○		
	3-3-4_返却	499	返却は、ICタグまたは資料バーコードの読み取り操作で行えること。	○		
		500	中央館は自動返却機による返却を主としながら、カウンターにおいても資料の返却を行い、個人返却・団体返却・相互貸借・館内閲覧に対応できること。	○		
		501	自動返却機に返却された大量の貸出資料に対して、連続して返却処理ができること。自動返却口に投入された貸出資料のICタグ返却処理は「仮返却」とし、当該資料は「貸出中」にカウントされないこと。	○		
		502	自動返却機で処理された仮返却の貸出資料は、職員による再度のICタグ読み込みまたは資料バーコードの走査により、仮返却状態を解除しシステム上の本返却が完了すること。	○		
		503	カウンター処理では、返却資料のICタグまたは資料バーコードを読み込むだけで返却を完了すること。	○		
		504	返却資料の資料情報にワンクリックで移動できること。資料情報とは書誌事項（タイトル、著者名、書誌番号、資料コード等）、内容細目、内容注記、所蔵情報、予約情報、発注情報を指す。	○		
		505	返却画面で利用者カードを読み込むことで、自動的に貸出画面に切り替わること。また手動でもワンクリックで貸出画面に切り替わること。	○		
		506	返却処理時に利用者貸出中の全資料を参照しながら返却ができ、返却された資料以外の未返却資料を確認できること。	○		
		507	新刊コーナーや閉架書庫の資料など、返却時に一般書架とは別に取り上げたい排架を任意に指定でき、返却時にその排架であることを画面に表示できること。	○		
		508	返却本に予約があるときにはこれを画面表示するとともに、予約本の受取先館の指定が返却館である場合は予約割当票、予約本の受取先館の指定が返却館でない場合は、予約回送票をシートプリンタに出力できること。予約割当票には、少なくとも、資料名、資料コード、利用者名、利用者名のヨミ、利用者番号、処理日、予約館、予約種別（読みたい順など）が出力できること。	○		
		509	予約のない資料が所蔵館でない館に返却された場合は、所蔵館を画面に表示するとともに、回送票をシートプリンタに出力できること。	○		
		510	付録の貸出有無について管理することが可能であること。付録付資料が返却された際は、警告音と共にメッセージが表示されること。	○		
		511	バーコードまたはICタグ連携のエラー等により返却処理が完了できない場合は、エラー音により操作員に通知すること。	○		
		512	返却画面から、利用者の仮返却管理の中資料明細を確認できること。	○		
		513	返却資料の選択・読み込みにより、利用者の詳細が確認でき、更に貸出・予約一覧を参照できること。	○		
		514	資料を借りていた過去数名分の利用者の貸出状況を一覧表示で確認できること。	○		
3-4_予約リスト業務	3-4-1_所蔵あり書誌（予約）	515	予約受取館として他館を設定している資料が返却された場合、予約回送を通知し、予約回送指示票を印刷できること。	○		
		516	利用者資格毎、資料形態毎に予約冊数等の予約規則が設定できること。また、内容は随時変更できること。	○		
		517	予約登録画面から資料検索・利用者検索処理へ画面展開でき、連携処理ができること。	○		
		518	予約登録画面から資料情報にワンクリックで移動できること。また、該当画面より資料の基本書誌情報（タイトル、著者名、書誌番号、資料コード等）、内容細目、内容注記、所蔵情報、予約情報、発注情報が確認できること。	○		
		519	予約登録画面から予約情報検索、予約順位変更の画面へ移動できること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		520	予約登録画面での利用者番号読み込み時、利用者の現在の予約数、リクエスト数、予約可能数、リクエスト可能数が確認できること。 (※予約＝所蔵資料に係るもの。リクエスト＝未所蔵資料に係るもの。)	○		
		521	1度の操作で、複数書誌の選択ができ、予約が登録できること。	○		
		522	予約登録後に予約受付票をレシート印刷できること。また再印刷もできること。	○		
		523	予約する書誌を特定した場合、所蔵数、禁帯出数、貸出数、予約数、発注数などの確認が容易におこなえること。詳細情報の参照が可能なこと。	○		
		524	利用者を特定した場合、該当利用者の予約登録内容が表示され、書名や予約日、割当日などの確認が容易に行えること。また、利用者の詳細情報を参照する場合は、ワンクリックで詳細画面に移動すること。	○		
		525	期間限定で禁帯出処理をしている雑誌資料等についても、予約が登録できること。	○		
		526	雑誌資料に対して予約を行うときには、巻号を指定して予約が行えること。	○		
		527	複本がある場合、全ての複本に予約がかかり、どれか一冊が返却された時点で予約通知が行えること。(書誌予約が可能なこと。)	○		
		528	複本を持つ資料に予約を行う際、資料選択時に資料コードを指定して予約登録を行うことができること。(所蔵予約ができること。)	○		
		529	複数の図書を任意の順番で借りたい場合、指定された順番に取置きすることが可能な優先予約が登録できること。	○		
		530	任意に予約の解除ができ、予約解除理由を登録できること。	○		
		531	予約登録した日時で、予約順位が自動設定できること。	○		
		532	利用者単位の予約件数の上限を設定でき、予約時に、同一書誌への二重予約チェックと予約件数オーバーチェックを自動で行うこと。	○		
		533	予約の取り置きをおこなう対象資料の所蔵館が指定できること。	○		
		534	予約の連絡方法（電話・メール・FAXなど）が設定できること。同一利用者が次回予約時は、前回設定内容が自動で設定されること。	○		
		535	予約の受取方法（中央館、分館、郵送、他公共図書館等）が設定できること。同一利用者が次回予約時は、前回設定内容が自動で設定されること。	○		
		536	予約対象資料は、利用者種別、帯出区分等により予め受付対象を設定できること。	○		
		537	中央館の予約資料は、予約図書受取室でアンテナ付き書架に取り置きされ、ICタグ連携により、利用者自身が予約資料案内機で資料の場所を確認した上で、セルフで自動貸出機で貸出処理を行えること。	●		
		538	取置期限日が休館日の場合、自動で翌開館日にスライドできること。	○		
		539	取置期限日を過ぎた予約対象資料リストを出力し、予約の一括取消ができること。	○		
		540	予約割当制限にて、特定資料に対して予約割当を不可とする設定が可能なこと。また、当該の予約割当制限された資料の一覧を抽出し、CSV形式等の標準的なフォーマットで排出できること。	○		
		541	特定の別置・分類や保管場所で指定して、予約割当制限の設定が可能なこと。	○		
	3-4-2_所蔵なし書誌(リクエスト)	542	利用者資格毎、資料形態毎にリクエスト冊数等のリクエスト規則が設定できること。また、予約冊数との合計数でも管理が行なえ、内容は随時変更できること。	○		
		543	予約登録と同様の操作方法で容易にリクエストの登録ができること。	○		
		544	リクエストを受付日や処理状況等で検索が可能であること。また、検索結果をCSV形式等の標準的なフォーマットで出力可能であること。	○		
	3-4-3_予約情報取り扱い	545	連絡方法、受取方法、予約種別の変更ができること。	○		
		546	予約の検索が行えること。また、予約の検索結果を引用してメールでの予約案内や、メールや電話等での利用者対応履歴、予約順位変更を行うことができること。	○		
		547	同一書誌への予約件数が複数ある資料をリアルタイムで検索する機能を有すること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		548	予約情報を特定すれば、予約日時・受取館・予約連絡方法等の予約情報について確認できること。また、予約を行った利用者情報、資料情報の詳細をリンクリッックで確認できること。	○		
		549	予約情報を解除することなく、取り置き資料のみの解除（割当解除）ができること。	○		
		550	在架予約検索機能で、自館、他館の在架予約資料が抽出できること。抽出条件には状態区分、排架区分、資料区分、在架館を使うことができること。	○		
		551	在架予約監視機能で、自館の在架予約冊数が業務端末に通知されること。	○		
		552	予約連絡が不要となっている予約に対し、自動で取置期限日が設定されること。	○		
		553	連絡方法をメールとしている予約に関しては、連絡メールの一括送信がおこなえること。また予約連絡日、取り置き資料の取り置き期限日が同時に自動設定されること。	○		
		554	予約解除を行った履歴が検索できること。	○		
		555	複本のない取り置き資料が不明、除籍になった場合、不明予約情報として検索ができること。	○		
		556	利用者番号、書誌番号、受取館、受付館、予約割当有無、予約連絡有無、連絡方法、延滞中資料などの条件で検索した一覧をCSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	○		
		557	予約順位は、受付日時の変更操作を行わず任意で変更できること。また、任意で受付日時の変更もできること。	○		
		558	予約情報の内容が他機能（利用者詳細、資料詳細）から容易に参照できること。	○		
		559	予約情報に対しての連絡事項が入力できること。またその内容が他機能（利用者詳細、資料詳細）から容易に参照、変更できること。	○		
		560	予約・リクエストの解除理由を登録できること。	○		
		561	予約情報の予約受付時間を再設定できること。	○		
		562	送信スケジュールを複数設定して自動送信可能であること。休館日には送信しないなどの設定もできること。また、手動でも送信できること。	○		
		563	所蔵区分が「不明」「除籍」「禁帯出」など、館外へ貸出できる所蔵がない状態の予約情報を検索できること。また、一括してリクエストに移行させることができること。	○		
		564	OPACなどで予約した予約情報が業務システムに更新される時に、エラーになった予約情報を確認できること。（※OAPC上、予約エラー情報が利用者に表示されなければよい）	○		
		565	予約順位の変更が行えること。また、利用者検索、資料検索、予約検索結果を引用して行うことができること。	○		
		566	セルフ予約棚への排架を窓口渡しへ変更するなど、予約資料の確保状態の変更をシステム上で管理できること。	●		
		567	予約された資料の割当方法（返却待ち、借受待ち、発注待ち等）の情報を管理できること。	○		
		568	予約申込方法（来館予約、電話予約、OPAC予約、Web予約）の管理ができ、申込方法毎の統計資料が出力可能なこと。	○		
		569	予約リストを以下の条件によりリストの出力が可能なこと。 ・出力対象：全件、割当済のみ、未割当のみ ・範囲指定：予約受付日、資料区分、予約受付館、予約受取館、利用者区分、予約申込区分	○		
		570	延滞資料のある利用者が予約しようとした場合、メッセージを表示して予約できないようにできること。その場合でも、職員判断により強制的に予約登録できること。	○		
		571	利用者へ貸出中の資料に対する、当該利用者本人による返却前の再予約を制限できること。	○		
	3-4-4_リクエスト情報取り扱い	572	リクエストした資料に関する連絡方法、受取方法の変更ができること。	○		
		573	リクエスト情報から、相互貸借の借受依頼、発注の選書情報が作成でき、相互貸借、発注機能と連携できること。また、該当資料が相互貸借、発注機能で所蔵登録されたときに自動で予約情報が作成されること。	○		
		574	リクエスト情報の受付内容、処理状況が予約情報と同様に他機能（利用者詳細、資料詳細）から容易に参照できること。	○		
		575	一つのリクエストに対し、利用者情報や受付情報、リクエスト詳細内容等が一面面で確認できること。また、リクエスト情報から利用者詳細、資料詳細に移動できること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
3-5_相互貸借業務	3-5-1_相互貸借管理	576	借受資料登録時に、借受先を入力できること。	○		
		577	貸出館の新規登録、登録情報修正、登録情報削除ができること。	○		
		578	借受館の新規登録、登録情報修正、登録情報削除ができること。	○		
		579	相手図書館の地区別管理ができること。	○		
		580	借受先別順の資料リストが出力できること。	○		
		581	相互貸借資料を予約または貸し出ししている利用者に対してシステム上でチェックを行い、相互貸借利用のメッセージを表示できること。	○		
		582	一般および団体等の利用者への貸出・返却とは別に、相互貸借貸出・返却の貸出履歴の管理および統計が取れること。またそれを帳票に出力できること。	○		
		583	対象館毎に任意期間の利用統計表（貸出の冊数・件数／借受の冊数・件数等）を出力できること。	○		
		584	貸出日数・冊数を設定でき、随時変更できること。	○		
		585	相互貸借票、送付票等の発行ができること。	○		
		586	借受資料は、利用者端末、Web-OPACからは書誌検索できないこととする。	○		
		587	借受資料は、利用者端末、Web-OPACからの貸出状況、予約状況確認画面には表示すること。	○		
		588	当日中の他館借受・貸出処理の一覧を確認できること。	○		
		589	借受資料単位で、借受先への返却期限を管理できること。	○		
	3-5-2_相互貸借／貸出	590	県内および県外図書館への貸出業務がシステム内で管理できること。	○		
		591	館別の貸出情報を一覧表示できること。	○		
		592	相互貸借で図書館に貸出中の資料は、「協力貸出」「相互貸借」等、個人貸出とは異なる表示がされること。	○		
		593	相互貸借館への貸出・返却ができること。	○		
		594	貸出発生日から起算して任意の期限を設定することにより、貸出期限の自動設定を可能とすること。	○		
		595	他館に貸し出した資料、返却された資料の一覧確認できること。また、一覧をCSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	○		
		596	延滞資料に対し、貸出延長・返却日変更処理が行えること。	○		
	3-5-3_相互貸借／借受	597	図書館貸出のための予約（禁帯出資料を含む）ができること。	○		
		598	相互貸借借受の際、書誌情報、所蔵館資料情報（請求記号・資料コード）、所蔵館・利用者等が登録できること。	○		
		599	システム内に登録されているMARC情報を利用して相互貸借の借受情報を作成できること。	○		
		600	登録MARCがない場合は、簡易に書誌データを作成して、借受情報を作成できること。	○		
		601	借受情報を参照できること。借受情報には、借受先館、書名、依頼者、依頼日、借受日、借受状況等が表示されること。	○		
		602	資料検索結果を引用し、借受依頼を作成できること。また、相互貸借対象の図書館検索が行え、検索結果を引用し、借受依頼を登録できること。	○		
		603	他館から借り受けた資料のバーコードを生かして資料の仮登録を行い、窓口業務から一般利用者へ貸出・返却できること。この際、自館資料コード、利用者番号との重複に関するチェックが行われること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		604	資料を借り受ける際、依頼先や進行状況など借受依頼から管理できること。また、借受けた資料に予約がある場合は、自動的に利用者への取置きとなること。	○		
		605	他館から借受した資料の一覧を確認、出力できること。	○		
		606	借受資料の状態（利用可能・受入待ち・借受館・依頼日等）を館毎に詳細な一覧で確認できること。	△		
		607	予め作成した借受情報に、リクエストした利用者の予約をかけることができること。	○		
		608	他館資料を返却する際に、借りた履歴を残すためにタイトル情報を保存するかどうかを選択できること。（次回再利用できること）	○		
3-6_問い合わせ	3-6-1_資料情報	609	検索した資料について資料請求票を印刷できること。資料番号のバーコードも印刷されること。複本がある場合は、それぞれについて印刷ができること。	○		
		610	資料バーコード（資料番号）のスキャンまたは手入力により、資料情報（所蔵情報・予約情報・発注情報）の表示を行えること。ICタグ連携できること。	○		
		611	MARC番号のスキャンまたは手入力により、資料情報（所蔵情報・予約情報・発注情報）の表示を行えること。	○		
		612	書名、著者名、内容紹介、著者紹介、出版者、出版年、所蔵冊数、予約件数、在荷冊数、内容細目（雑誌の場合は目次情報）、連絡事項などが確認できること。	○		
		613	所蔵情報画面より、資料の現在の状況や所蔵館が確認できること。また、在庫の場合は最終利用日、貸出中の場合は返却予定日が表示されること。	○		
		614	所蔵情報画面より、現在資料を借りている利用者名が確認できること。また、利用者名の表示／非表示を切り替えられること。	○		
		615	所蔵情報画面より、目録編集が可能であること。	○		
		616	予約情報画面より、予約登録処理、予約解除処理及び予約割当取り消し処理ができること。	○		
		617	予約情報画面より、予約者名とその予約順位が確認でき、順位変更が行えること。また、利用者名の表示／非表示を切り替えられること。	○		
		618	予約情報画面より、予約可能数、予約資料の状況、連絡情報、取り置き期限日を確認できること。また、予約順位変更を行えること。	○		
		619	予約情報画面より、予約解除処理及び予約割当取り消し処理ができること。	○		
3-7_督促	3-7-1_延滞資料の検索	620	延滞督促画面から資料検索／利用者検索処理へ画面展開でき、連携処理ができること。	△		
		621	延滞督促画面から、資料情報（書誌情報、資料複本一覧、予約一覧、発注情報一覧、連絡事項）、利用者情報（基本情報、貸出資料一覧、予約資料一覧、延滞督促履歴一覧、連絡事項）をワンクリックで確認でき、CSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	○		
		622	自館で設定した期間の延滞がある利用者を、一括して検索またはリスト出力できること。	△		
		623	継続督促中の督促履歴の検索条件として、督促開始からの経過日数、または最終督促日、督促状況、督促回数などを指定し、督促中の延滞資料を検索できること。また検索結果の一覧がCSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	●		
		624	延滞者・延滞資料・督促履歴リストがCSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	○		
		625	督促一覧表は、返却期限日、利用者番号、利用者の電話番号、利用者の勤務先電話番号、資料番号及び請求記号等でのソートができること。	○		
		626	長期延滞一括処理は検索結果の内容から、個別指定、一括指定で延滞資料を不明処理できること。複本がない資料が不明処理される場合、警告メッセージが表示されること。	○		
		627	一定期間未満の弁償中資料は督促対象から外すことができること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
	3-7-2_督促の実施	628	利用者番号を入力するだけで該当利用者の延滞情報が表示され、個別に督促ができること。	○		
		629	検索結果を流用し督促の実施ができること。	○		
		630	利用者単位で個別の督促ができること。	△		
		631	利用者別に資料、督促毎の履歴を残し、時系列に履歴が参照できること。	○		
		632	督促状況については督促方法毎に、電話（本人、伝言、留守電、不在）、FAX（案内完了）、郵送（案内完了）、メール（案内完了、未案内）とし、履歴に残すこと。	○		
		633	電子メールによる督促通知機能を有すること。電子メールは個別、一括送信ができ、メール送信履歴を残すこと。督促メール送付前にメール文面を確認できること。	○		
		634	督促状による督促通知機能を有すること。督促状は個別、一括印刷ができること。督促ハガキの宛名印字位置、コメントを職員によって任意に設定できること。	○		
		635	督促時の連絡先に間違いがあった場合、利用者情報に記録することが可能で、利用者への連絡事項として他機能でも扱われること。	○		
		636	督促中資料が返却されたときは、当該資料の督促履歴が削除されること。	○		
		637	督促状の送付先を保護者宛に設定して印字できること。	○		
3-8_移動(巡回)図書館	3-8-1_移動(巡回)図書館	638	堅牢（耐震・防塵性に優れた）なノートブックコンピュータを使用して貸出返却業務、資料検索等が館内と同様な操作で行えること。また、ハンディターミナルでの貸出返却業務ができること。	●		
		639	ハンディターミナルとノートパソコンを混在して、運用が行えること。	●		
		640	ノートパソコンは貸出、返却、利用者検索、資料検索、予約処理、予約資料一覧表示ができ、操作画面は、窓口業務のオンライン端末と同じであること。	●		
		641	館コードおよび巡回先コードの設定ができること。	●		
		642	移動図書館車または配本車の巡回スケジュールを登録・管理できること。	●		
		643	毎日の巡回先（配本先）の設定ができること。	●		
		644	利用者カードおよび資料のバーコードをスキャンして、貸出処理ができること。この際、利用者番号および資料番号が蓄積されること。	●		
		645	返却日を指定して貸出することが可能であること。	●		
		646	資料のバーコードをスキャンして返却処理ができること。この際、資料番号が蓄積されること。	●		
		647	利用者カードによる番号入力および資料のバーコードをスキャンした時点で、除籍された利用者や予約が入っている資料などのチェックができること。	●		
648	蓄積された貸出・返却情報を、簡便な操作で図書館システムに反映できること。	●				
649	システム反映時、予約資料の返却、貸出上限冊数を越える貸出、利用者確認等の情報がリストに出力できること。	●				
650	データ転送件数（転送データ数、正常処理数、エラー処理数）を表示できること。	●				
651	データ転送の際、貸出や返却エラー等のエラー情報を表示できること。また、表示されたエラーをCSV形式等の標準的なフォーマットによってファイル出力ができること。	●				
4_利用者サービス機能						
4-1_館内OPAC業務	4-1-1_共通	652	館内OPACは、タッチパネルディスプレイによるシステムとすること。	○		
		653	表示方法はそれぞれ大人用（漢字）・子供用（かな）・外国人用（英語）の3つから選択できること。児童エリアの端末では子供用で初期表示できること。	○		
		654	利用者の操作方法を各画面にガイダンスを表示でき、表示方法に合わせて漢字、かな、英語表示されること。	△		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		655	TRC（図書館流通センター）の学習件名典拠を活用した検索機能を持つこと。	○		
		656	どの画面からも初期画面に戻ることができること。	○		
		657	一定の時間、操作がなかった場合、自動的に初期画面に戻ること。	○		
		658	業務システムからOPACシステムへの資料・貸出・予約情報等の反映は、リアルタイムで反映されるようにすること。	○		
		659	排架図・排架場所を画像表示することができ、排架図と排架場所の編集を、図書館職員が容易に設定できること。	○		
		660	検索対象資料は職員で設定できること。	○		
	4-1-2_蔵書検索	661	画面に表示されたカナ及び英数のキーで、キーワードを入力して検索できること。その場合、中間一致検索ができること。	○		
		662	タイトル、著者名、出版社、出版年、分類等を検索キーとして検索できること。	○		
		663	分類番号を意識せず、分類表から分類名を選択し、分類検索ができること。	○		
		664	検索結果一覧は再度検索せずに並べ替えができること。また、並び替えはタイトル名、著者名、出版者名、出版年、シリーズ名をキーとして行えること。	○		
		665	図書・雑誌・視聴覚資料を一括または任意に限定して検索できること。	○		
		666	所蔵されている資料は、貸出中・予約中・回送中などにかかわらず検索できること。また、整理中、修理中、不明など、利用者に提供できない状態になった場合は検索対象から外すことができること。	○		
		667	所蔵館を一括または任意に限定して検索できること。	○		
		668	著者名、件名典拠を利用した検索ができること。	○		
		669	一般書・児童書を区別して検索することが可能であること。	○		
		670	子供向けに、児童資料を対象としたNDCを意識させない分類検索機能を持つこと。	○		
		671	検索結果が、システム設定された件数に達した場合は、一覧表示の前に検索結果件数と表示確認メッセージを表示すること。	○		
		672	検索結果一覧を子供向け資料のみに絞り込むことができること。	△		
		673	資料検索結果からワンクリックで資料詳細画面へ移動できること。また、操作性を統一しておくこと（ある画面は資料名クリックで詳細情報が表示されるが、ほかの画面では、詳細ボタンを押さないと詳細情報が表示されない等ではなく）。	○		
		674	資料詳細画面から、検索結果の前後の資料詳細データに、検索結果一覧に戻ることなく移動できること。	○		
		675	書誌の詳細表示には、代表的な書誌情報のほかに内容紹介、著者紹介等の項目も表示すること。	○		
		676	著者名等の特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンクリックで検索できること。	○		
		677	所蔵の詳細表示には、現在の貸出状況・予約件数、各資料毎の排架場所を表示すること。雑誌の場合は特集目次情報も表示されること。	○		
		678	所蔵資料については、書誌・所蔵の詳細表示から排架図を表示できること。所蔵資料状態が「在架」「貸出中」以外の「予約回送中」「回送中」の状態が分かるようにしておくこと。（所蔵しているのに状態によって「所蔵無」表示を避けるため）	○		
		679	表示された排架図では排架場所を表すポイントが表示され、ポイントの表示設定は排架区分や別置記号、請求記号の範囲などを組み合わせで、図書館職員が容易に設定できること。また、操作中の端末位置がわかるようなポイントが表示されること。	○		
		680	検索した資料について資料請求票を出力できること。資料番号のバーコードも出力されること。	○		
		681	館内OPACでの検索回数統計が出力できること。	○		
		682	フリーワードによる検索時、条件を空白で区切って複数入力することで、AND/ORによる複合検索ができること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		683	雑誌はタイトル情報に設定された「ジャンル」を選択して、タイトル一覧が表示できること。	○		
		684	検索結果が複数ページにわたる場合、指定したページ（先頭ページ、最終ページ、ページ番号指定）に直接移動できること。	○		
		685	検索結果に雑誌の最新号があるとき、タイトル一覧画面で、タイトルが最新号であることが一目でわかること。	○		
		686	新着資料・新刊資料・貸出ベスト・予約ベスト資料・推薦資料は一覧を表示するだけでなく、一覧をタッチすることにより資料の詳細情報へ移り、資料の状態を確認、予約入力画面へ移ることができること。	○		
		687	検索一覧、資料詳細情報等のレシートプリンターへの出力が可能なこと。	○		
		688	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位で表示できること。	○		
		689	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。	○		
		690	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。	○		
		691	巻号一覧に条件を追加し、絞込みできること。	○		
		692	詳細画面では主要な項目（タイトル、シリーズ、責任表示等）を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。	○		
		693	合本（製本）資料の場合、合本された子資料の表示ができること。	○		
	4-1-3_予約 申込	694	館内OPACで、利用者自身による予約の申込みができること。	○		
		695	予約申し込み時には、利用者番号とパスワード入力による利用者認証が必要なこと。	○		
		696	利用資格が「無効」「貸出停止」「有効期限切れ」の場合は予約ができないこととし、メッセージを表示すること。	○		
		697	延滞資料のある利用者は予約ができないこととし、メッセージを表示すること。延滞日数などにより、予約の可否が設定できること。	○		
		698	予約をするときは、同一書誌への二重予約チェックと利用者毎の予約件数オーバーチェックを行うこと。	○		
		699	図書・雑誌・視聴覚資料または資料種別（紙芝居、CD、DVD等）により、予約可能件数が設定できること。	○		
		700	自身が借受け中の資料には予約がかけられないこと。	○		
		701	在架資料に対し予約をかけることが可能であること。また、操作端末が置かれている館の在架資料への予約の可否が設定できること。	○		
		702	在架、貸出中等の状態によって、予約の可否の条件を変更できること。	○		
		703	雑誌最新号や禁帯出資料等、特定の資料区分に対し予約の可否を設定できること。	○		
		704	図書資料について、予約しようとする時点での予約順位がわかること。	○		
		705	予約画面では資料が取り置きされた場合の連絡方法、受取場所が予約の都度、設定できること。	○		
		706	予約画面で、自分が受け取りを希望する館を一覧から選択できること。	○		
		707	予約した資料の予約票が、レシートプリンターから印刷できること。	○		
		708	利用統計にて館内OPACでの資料予約件数が抽出できること。	○		
	4-1-4_貸 出・予約情報 照会	709	利用者自身の貸出資料や予約資料の一覧、状況が参照でき、レシートプリンターから印刷できること。	○		
		710	参照時には、利用者番号とパスワード入力により、利用者認証をおこなうこと。	○		
		711	認証された利用者の延滞資料を、メッセージと共に表示できること。	○		
		712	利用者自身により、貸出中資料の延長申込みができること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
	4-1-5_パスワード	713	延滞資料、予約有り資料、他図書館からの借受資料は延長申込できないこと。	○		
		714	予約資料毎に自分の現在の予約順位が確認できること。	○		
		715	資料が取り置きされていない場合、利用者自身による予約の変更（連絡方法・受取場所）及び取消（キャンセル）の申込みができること。	○		
		716	OPACから、利用者自身によりカード番号、生年月日、利用者名等による認証でパスワードの初期登録ができること。利用者の年齢で登録を制限できること。	○		
		717	パスワードを忘れた利用者は、再度利用者認証することでパスワードを再登録できること。	○		
		718	利用者自身によりパスワードの変更ができること。	○		
	4-1-6_情報提供	719	現在までの設定された期間内に受入された資料（新着・新刊等）のリストが、図書館で指定する分類毎（NDC分類・児童資料・郷土資料など）に表示されること。リストは、予め設定した条件・サイクルで自動作成されること。	○		
		720	年度毎のベスト貸出資料リストが一般向け／児童向けで表示できること。	○		
		721	ベスト貸出資料リストは一般書・児童書・郷土資料を区別して集計・表示することが可能であり、各一覧はワンクリックで切り替えることができること。また集計項目は任意に設定できること。	○		
		722	現在のベスト予約資料リストが一般向け／児童向けで表示できること。	○		
		723	ベスト予約資料リストは一般書・児童書・郷土資料を区別して集計・表示することが可能であり、各一覧はワンクリックで切り替えることができること。また集計項目は任意に設定できること。	○		
		724	図書館職員の選書による、テーマに沿った推薦資料の表示ができること。推薦資料のテーマは複数件登録でき、任意の期間のみ表示できること。	○		
		725	お知らせ情報については、表示期間を設定し、表示期間満了のお知らせについては自動的に非表示となること。	○		
		726	業務システムで登録した開館／休館情報を自動的に反映した図書館カレンダーを表示できること。	○		
		727	各館の図書館カレンダーを表示できること。館を指定してカレンダーの切り替えができること。	○		
		728	雑誌ジャンルを登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。	○		
		729	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。	○		
		730	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。	○		
		731	図書館の休館日は色を変えて表示できること。	○		
		732	業務システムで登録したイベント・お話し会の日程を図書館カレンダーで表示できること。	○		
4-2_利用者向けWebサービス	4-2-1_共通	733	パソコン・携帯電話・スマートフォンで利用できること。携帯電話・スマートフォン・タブレット用に対応するページにする、または専用ページの用意しておくこと。	○		
		734	入力域やボタンなどの画面デザイン、操作性は、図書館サイト全体の統一性を持たせたものとする。	○		
		735	利用者認証にSSLを使うなど、セキュリティについて配慮されていること。SSLは無効、TLS1.2以上とする。	○		
		736	業務システムからOPACシステムへの資料・貸出・予約情報等の反映は、リアルタイムで反映されるようにすること。	○		
		737	アクセス統計は、期間指定により曜日、ページ毎の集計を行うことができること。	○		
		738	パラメータ管理により、タイトル詳細画面の内容紹介欄の表示を以下のパターンに設定できること。 ・内容紹介を非表示にする ・内容紹介が複数あるとき、紹介データ毎に改行し、全ての内容紹介データを登録順に表示する	○		
		739	利用者自身でメールアドレスの登録・変更・削除ができること。内容確認のために、図書館から登録完了メールが自動送信されること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入	
中分類	小分類	項番					
	4-2-2_蔵書 検索	740	検索対象資料は職員で設定可能なこと。	○			
		741	簡易検索画面を保持すること。簡易検索画面と詳細検索画面はワンクリックで切り替え可能であること。	○			
		742	ホームページのトップなど、任意のページに簡易検索入力フォームが設定できること。	○			
		743	タイトル、著者名、出版者、出版年、件名、フリーワード、雑誌の特集目次情報、各種コード（ISBN、ISSN、書誌番号、資料番号、請求記号等）などの項目をキーとして検索できること。また、これらのキーを組み合わせで検索できること。	○			
		744	資料の種類・館を限定して検索ができること。	△			
		745	図書・雑誌・視聴覚資料・児童書・郷土資料・外国語図書などの資料種別に、一括または任意に項目を限定して検索できること。	○			
		746	資料形態を一括または任意に限定して検索できること。	○			
		747	著者名、件名典拠を利用した検索ができること。	○			
		748	分類番号を意識せず、分類表から分類名を選択し、分類検索ができること。	○			
		749	検索項目内で、AND/OR検索の指定ができること。	○			
		750	一覧表示の表示順を書名・著者名・出版年・出版者の昇順及び降順で設定できること。	○			
		751	検索結果一覧からキーワードや資料区分等の項目を追加することにより、入力済みの検索条件とかけ合わせて絞り込み検索ができること。	○			
		752	検索結果一覧は、再度検索せず並べ替えができること。	○			
		753	資料詳細画面から、検索結果の前後の資料詳細データに、検索結果一覧に戻ることなく移動できること。	○			
		754	検索キーワードをハイライトで表示できること。また、ハイライト表示を任意でON/OFF切替可能であること。	○			
		755	詳細表示には、以下の内容が表示できること。 ・代表的な書誌情報のほかに内容紹介、著者紹介等の項目 ・雑誌の場合は特集目次情報 ・現在の貸出状況・予約件数、各資料毎の排架場所	○			
		756	詳細画面から著者名、件名の典拠リンク検索ができること。	○			
		757	他図書館、団体などからの横断検索に対応できる仕様であること。	○			
		758	日本語表示の場合、読み上げソフトに対応し、視覚障害者でも検索及び参照ができること。	○			
		759	Web-OPACでの検索回数統計が出力できること。（※携帯電話の場合も同様）	○			
		760	図書資料情報に、GoogleやAmazon等のサイトと連携し、書誌表紙画像や書評等を表示できること。	●			
		4-2-3_予約 申込	761	利用者自身による予約の申込みができること。	○		
			762	予約申し込み時には、利用者番号とパスワード入力により、利用者認証を行うこと。	○		
			763	利用資格が「無効」「貸出停止」「有効期限切れ」の場合は予約ができないこととし、メッセージを表示すること。	○		
			764	延滞資料のある利用者は予約ができないこととし、メッセージを表示すること。延滞日数などにより、予約の可否が設定できること	○		
			765	カート方式により一度の利用者認証で複数の予約申込みができること。また、カート登録後の資料追加・削除が可能なこと。	○		
			766	カート内の情報は、利用者がログアウト後も保持できること。	○		
			767	カート方式の予約の際は、「読みたい順予約」（上・下巻）の申し込みができること。	○		
768	予約をするときは、同一書誌への二重予約チェックと利用者毎の予約件数オーバーチェックを行うこと。		○				

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		769	図書・雑誌・視聴覚資料または資料種別（紙芝居、CD、DVD等）により、予約可能件数が設定できること。	○		
		770	自分が借受け中の資料には予約がかけられないこと。	○		
		771	在架資料に対し予約をかけることが可能であること。	○		
		772	雑誌最新号や禁帯出資料等、特定の資料区分に対し予約の可否を設定できること。	○		
		773	図書資料について、予約しようとする時点での予約順位がわかること。	○		
		774	予約画面では、資料が取り置きされた場合の連絡方法・受取場所が、予約の都度設定できること。	○		
	4-2-4_貸出・予約情報照会	775	利用者自身の貸出資料や予約資料の一覧、状況が参照できること。	○		
		776	参照時には、利用者番号とパスワード入力により、利用者認証をおこなうこと。	○		
		777	認証された利用者の延滞資料を、メッセージと共に表示できること。	○		
		778	利用者自身により、貸出中資料の延長申込みができること。	○		
		779	延滞資料、予約有り資料、他図書館からの借受資料は延長申込できないこと。	○		
		780	予約資料毎に自分の現在の予約順位が確認できること。	○		
		781	資料が取り置きされていない場合、利用者自身による予約の変更（連絡方法・受取場所）及び取消（キャンセル）の申込みができること。	○		
		782	貸出・予約・予約確保の一覧画面にて、タイトルからワンクリックで書誌詳細画面へ移動できること。	○		
	4-2-5_パスワード	783	利用者自身により、パスワードの変更ができること。	○		
		784	パスワード保護対策として、一定回数連続で認証に失敗すると、設定された時間はログインを制限することができること。	○		
	4-2-6_情報提供	785	現在までの設定された期間内に受入された資料（新着資料）のリストが図書館で指定する分類毎（NDC分類・児童資料・郷土資料など）に表示されること。リストは、予め設定した条件・サイクルで自動作成されること。	○		
		786	年度毎のベスト貸出リストが一般向け／児童向けで表示できること。	○		
		787	ベスト貸出資料リストは一般書・児童書・郷土資料を区別して集計・表示することが可能であり、各一覧はワンクリックで切り替えることができること。また集計項目は任意に設定できること	○		
		788	現在のベスト予約リストが一般向け／児童向けで表示できること。	○		
		789	図書館職員の選書による、テーマに沿った推薦資料の表示ができること。推薦資料のテーマは複数件登録でき、任意の期間のみ表示できること。	○		
		790	推薦資料の登録は資料検索等を利用し、資料単位に選書できること。または特設コーナー等がある場合は排架区分単位に設定することもできること。	○		
		791	業務システムで登録したお知らせ情報を、任意の期間で自動表示できること。お知らせ情報には、写真・画像を掲載可能なこと。	○		
		792	お知らせ情報については、表示期間を設定し、表示期間満了のお知らせについては自動的に非表示となること。	○		
		793	業務システムで登録した開館／休館情報を自動的に反映した図書館カレンダーを表示できること。休館日は特にわかり易く表示できること。	○		
		794	業務システムで登録したイベント・お話し会等の日程を図書館カレンダーで表示できること。	○		
		795	(SDI) 図書館が指定するジャンルや、利用者のキーワード設定により抽出された新着資料情報のメール通知機能が提供できること。	●		
		796	(SDI) 受信したい新着メール配信サービスを、利用者自身が設定できること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		797	(SDI) 登録者には、下記のSDIメールを自動配信できること。また、必要に応じて図書館職員が手動で送信できること。 ・イベント案内 ・図書館お知らせ ・新着図書案内 ジャンル別 ・新着図書案内 キーワード登録	●		
		798	(SDI) 自動送信される新着メール本文内に図書館職員で適宜にコメント（蔵書点検・休館案内等）を挿入できること。	○		
		799	子ども向けのお知らせ・検索等の機能があること。	○		
		800	利用者が図書館システムに登録している利用者番号（ユーザID）、パスワードでログインできること。	●		
		801	ログイン後の画面上、下記のリンクが存在すること。 トップ、蔵書検索、新着図書、ベストリーダー、ベスト予約、貸出状況、予約状況、Web図書館、登録情報、パスワード変更、SDIサービス、メルマガ、ログアウト ※Web図書館、SDIサービス、メルマガは、運用開始後に順次追加されるサービス	●		
		802	トップ画面では、図書館からのお知らせを表示できること。 お知らせ内容は図書館システムから、新規追加、編集、削除が可能なこと。 お知らせ表示は期間指定ができること。	●		
		803	蔵書検索は詳細検索、フリーワード検索ができること。	●		
		804	新着図書は、分類の選択を行って（複数選択可）、検索ができること。 ※利用者マイページ内表示でなくても可能	●		
		805	ベストリーダーは今年度、また過去分も確認できること。児童資料も別ページで表示できること。 ※利用者マイページ内表示でなくても可能	●		
		806	ベスト予約を表示できること。児童資料も別ページで表示できること。 ※利用者マイページ内表示でなくても可能	●		
		807	貸出状況ページで、借りている資料一覧が表示できること。	●		
		808	予約状況照会ページで、予約している資料一覧が表示できること。予約順位が表示されていること。	●		
		809	予約カートページで予約カートに入れた資料一覧が表示されること。予約件数が表示されていること。	●		
		810	Web図書館へリンクできること。	●		
		811	登録情報ページで、登録されているメールアドレス、貸出券の有効期限が確認できること	●		
		812	パスワード変更ができること。	●		
		813	利用者個人ページから任意でログアウトができること。一定時間無操作の場合自動でログオフすること。	●		
		814	お気に入りとして利用者任意の書誌を登録する等の機能を有すること。資料詳細の画面から、お気に入りとして選択・登録が可能なこと。	●		
		815	ログイン認証した利用者個人ページに、貸出履歴の保存に同意するかどうかの画面を用意すること。貸出履歴の保存に同意する利用者のみ、貸出履歴を参照できること。	●		
4-3_携帯電話向けサービス	4-3-1_携帯電話向けサービス	816	各キャリア（DoCoMo、au、SoftBank等）に対応していること。	○		
		817	本図書館所蔵資料を検索対象にした、一般利用者向けの検索機能を提供できること。（※利用者向けWebサービスに準じるものとする。）	○		
4-4_レファレンス	4-4-1_レファレンス	818	Web受付フォームがあること。受付フォームから業務システム内にデータの取り込みができること。	○		
		819	登録したレファレンスデータをホームページ上で公開でき、利用者がWeb上で事例を検索できること。	●		
		820	レファレンス業務において実施した回答事例をシステム内にレファレンス処理票データベースとして持ち、管理・記録・検索できること。また、事例としてホームページのレファレンス事例集やレファレンス協同データベースに提供する事例データのみを管理するレファレンス事例データベースを別途、管理するような仕組みであること。	○		

機能詳細要件書兼回答書

【優先順位】

「継続：○」＝次期システムに望む機能 「希望：△」＝仕様変更可能な機能 「新規：●」＝次期システムに追加したい機能

【対応区分】

「可能：○」＝パッケージ内で対応可能 「一部：△」＝運用変更で対応可能（提案記載） 「不可：×」＝カスタマイズ必要（概算額記載）

大分類			機能内容	優先順位 継続○ 希望△ 新規●	可能○ 一部△ 不可×	対応△×の場合は代替案記入
中分類	小分類	項番				
		821	記入項目は国立国会図書館レファレンス協同データベースに準拠したもので、必須項目を出来るだけ少なくしたシンプルな構成であること。また、国立国会図書館レファレンス協同データベースでの入力項目以外に、受付者や処理状況などが管理できる入力項目があること。	○		
		822	登録日順等に、質問・回答を容易に通覧できること。	○		
		823	職員相互のコメント付与機能があること。	○		
		824	事例データを、CSV形式等の標準的なフォーマットで出力できること。	○		
		825	レファレンス協同データベース標準フォーマットでデータ抽出ができること。抽出条件を設定し、レファレンス協同データベース向け提供データ作成ができること。	○		
		826	レファレンス処理に用いた資料の書誌情報を蔵書データベースから引用でき、回答内容にも反映させられる機能を有すること。	○		
		827	レファレンスの内容種別などで統計が出力できること。	○		
5 Web図書館連携						
5-1_Web図書館連携	5-1-1_Web図書館連携	828	将来的に、TRC社が提供するWeb図書館に、利用者番号とパスワードでログイン連携がとれること。TRC社と連携の仕様について調整すること。	●		
		829	Web-OPACとTRC-DL等によるWeb図書館のデータのやり取りは、暗号化されていること。	●		
6 デジタルサイネージ						
6-1_デジタルサイネージ	6-1-1_サイネージ	830	デジタルサイネージの表示レイアウトの編集においては特別なプログラミング知識を必要とせず、管理用PCにより担当者が容易に作成・変更が可能であること。	●		
		831	デジタルサイネージに、図書システムと連携した利用者向けWebサービスで公開する図書館の館内案内、イベント情報、新刊図書案内、バストリーダー、推薦本等の図書館利用情報を表示させることができること。また、GoogleやAmazon等のサイトと連携し、書誌表紙画像や書評等を表示できること。なお、コンテンツの情報更新は、図書システムや関連サイトとの連動による自動更新が望ましい。	●		
	6-1-2_コンテンツ	832	中央館のデジタルサイネージに、図書館情報のほか、地域の地図情報、観光情報、公共交通機関情報、行事・イベント、市役所からのお知らせ等を表示できるものとする。関連サイトの情報更新は、自動更新されること。	●		
7 その他連携						
7-1_光丘文庫	7-1-1_画像資料	833	現在図書館ホームページで公開している画像資料の「両羽博物図譜」、「弘采禄」、「古文書画像検索」、「光丘文庫所蔵文化財」、「寄贈図書」について、Web上での検索・閲覧が容易にできるように引き継ぐこと。	△		
	7-1-2_デジタルアーカイブ	834	業務システムのトップページとホームページ、Web-OPAC上のトップページに、光丘文庫のデジタルアーカイブ資料の閲覧を目的とした、ADEACデジタルアーカイブシステムへのリンクを作成すること。	●		
7-2_国立国会図書館	7-2-1_国立国会図書館	835	業務システムのトップページとホームページ、Web-OPAC上のトップページに、国立国会図書館が提供する「図書館向けデジタル化資料送信サービス」へのリンクを作成すること。	●		
				○		0
				△		0
				×		0
				合計		0